東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 28 号: 1 (2023)
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* Vol. 28: 1 (2023)

〈論文〉

格接辞の付された形式から見るモンゴル語の「形容詞」の名詞的用法

The nominal use of Mongolian 'adjectives' with any case suffixes

山田 洋平
Yohei Yamada

東京外国語大学言語社会教育センター
Tokyo University of Foreign Studies

要旨：モンゴル語の形容詞と呼ばれる語群には名詞的な用法があり，格接辞を付すことが可能であることが知られている．そこで本研究では，実際に形容詞と呼ばれうる語の名詞的な用法がどのような頻度で用いられるか，格接辞の付された形式を調査することで検証した．具体的にはコーパスを用いて格接辞が付された「形容詞」の使用される例を検索し，「形容詞」に格接辞が付された形式がどのような場合に用いられるのか整理し，意味グループごとに名詞として使われやすい「形容詞」を明らかにした．

Abstract: In Mongolian, the group of words known as adjectives is generally considered to be used as nouns in sentences. Therefore, using corpus analysis, we investigated the frequency with which words classified as adjectives are used nominally in Mongolian. Specifically, we examined instances of "adjectives" with noun case markers, exploring the common patterns in which "adjectives" are used as nouns and identifying semantic groups in which "adjectives" are more frequently employed as nouns.

DOI: https://doi.org/10.15026/0002000367
キーワード： モンゴル語，コーパス，形容詞，格接辞，名詞的用法
Keywords: Mongolian, Corpus, adjectives, case marker, nominal use

1. はじめに

モンゴル語[1]のいわゆる形容詞と呼ばれる語群は，名詞の下位分類とされたり，名詞と隣接する語類であるとされたり，いずれにせよ名詞に近いものであると見做されている．その根拠はモンゴル語の形容詞が格接辞をとることができるなど名詞と形態的に区別しがたいというところにある．本稿では両品詞を区別する特徴が格接辞のとりかたの違いに出るのではないかと仮定して調査を行なうものである．本稿ではとくに山田 (2022, 2023a,b) や本稿で調査対象とする"形容詞"の候補となる語群について指す場合は鍵括弧つきで「形容詞」と示し，より一般的な意味で用いる鍵括弧無しの形容詞と区別する．

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] モンゴル語はモンゴル国や中国内モンゴル自治区などに分布する膠着型・接尾辞型の形態論を有する言語である．本稿ではコーパスの都合上モンゴル国で使用される書き言葉を対象として調査を行った．モンゴル語の例を提示する際には，新モンゴル語正書法による綴りをラテン文字に転写してこれを示す．転写の対応は以下の通り．(右がラテン文字) а:a, б:b, в:w, г:g, д:d, е:yö/ye, ё:yo, ж:ǰ, з:z, и:i, й:j, к:k, л:l, м:m, н:n, о:o, ө:ö, п:p, р:r, с:s, т:t, у:u, ү:ü, ф:f, х:x, ц:c, ч:č, ш:š, ь:', ы:y, ъ:'', э:e, ю:yu/yü, я:ya. また接辞の代表形としてラテン文字の大文字 (A, U, Y) を使用している場合，音韻的な条件により複数の異形態を以て実現することを意味する (A : a, o, e, ö. U: u, ü. Y: y, ij).

山田 (2022, 2023a) はこうしたモンゴル語の「形容詞」特有の，形容詞らしい特徴を見出すことによってこれを定義できないかという試みであった．他方，形容詞の名詞的な性質については，従来十分に検討されてきていない．本稿では山田 (2022, 2023a) に倣いコーパスを用いてモンゴル語の「形容詞」に格接辞が付された語形の出現頻度を数え上げ，これによってモンゴル語の「形容詞」の名詞的に機能する性質について記述するものである．

本稿では以下 2. において先行研究の記述を概観した上で，問題点を指摘する．3. でこれを解決するための調査方法を提示し，4. で調査の結果を示し，分析する．5. でまとめと今後の課題について示す．

2. 先行研究

2.1. モンゴル語の形容詞の名詞的な性質

モンゴル語の形容詞の性質を名詞との異同という点から論じた研究として 山越 (2000) がある．山越 (2000) はモンゴル語の形容詞が品詞分類において名詞とどのように区別されるのか、先行記述を概観している．その上で，両者の区別は，意味的な特徴からも妥当であると分析している．

山越 (2000: 100) は「「形容詞」の「名詞」的用法」として，次のような例を挙げている (例文のラテン文字転写と形態素分析，グロス，強調のための下線は筆者による．和訳は原典に依った).

(1) *<u>jǐjǐg-ijg=n’</u>* *aw-ø.*
小さい-ACC=3SG.POSS 取る-IMP
「小さいほうを取れ.」(山越 2000: 100)

(2) *ter* *gancaaraa* *baj-gaa* *<u>büdüün=čin’</u>* *bodon* *šiwdee.*
その 独りで いる-IPFV 太い=2SG.POSS 猪 ようだ
「そこにいる太ったのは猪らしい.」(山越 2000: 100)

(1) では「小さい」という意味の語 *jǐjǐg*「小さい」が対格接辞 *-ijg* と所属を表す *=n’* を伴い，目的語として機能している．(2) では「太い」という意味の語 *büdüün*「太い」が「そこにいる」という節の被修飾語となり，所属を表す *=čin’* を伴い，「猪 (である)」という名詞述語に対する主語になっている．

筆者収集による次の例 (3) では *jǐjǐg*「小さい」と *büdüün*「太い」が名詞修飾語として用いられている．「太い」という意味の語 *büdüün* が *awgaj*「おばさん」を，「小さい」という意味の語 *jǐjǐg* が *ojms*「靴下」(あるいは「子ども」) を修飾している．おそらくこうした名詞を修飾しているのがこれらの語の典型的な用法であり，それゆえにこれらの語が形容詞と見做されるものと思われる．(1)(2) ではこれらの語が，派生接辞などを付さない (3) における出現形と同形のままで典型的な名詞同様の屈折をしている．

(3) *ter* *xoyor-yn egc* *urd-aas* *xar-ǰ* *suu-gaa* *<u>büdüün</u>* *yagaan* *awgaj* *nogoon*
その ２-GEN 真直ぐ 前-ABL 向かう-SIM 座る-IPFV 太い ピンクの 中年女性 緑の
nooson *uts-aar* *<u>jǐjǐg</u>* *xüüxd-ijn* *ojms* *nex-eǰ* *xaragd-ana.*
羊毛の 糸-INS 小さい 子ども-GEN 靴下 編む-SIM 見える-NPST
「その二人の真後ろに向かって座っている太ったピンクのおばさんが、緑色の毛糸で小さな子どもの靴下を編んでいるのが見える」(Mongolian National Corpus[2])

[2] 収録語数 1,160,000 からなるモンゴル語のウェブコーパス．収録されているデータは文学作品を収集したもののようだが，内容についての詳細は不明．自動で付されたとみられる文法情報のアノテーションやロシア語訳もある．http://web-corpora.net/MongolianCorpus/search/index.php?interface_language=en

山越 (2000) は従来のモンゴル語研究において，立場の違いこそあれ結局は語類として名詞と形容詞の区別がされていることを指摘した上で，こうした区別は妥当であると論じている．その根拠として山越 (2000: 101) は，言語一般に形容詞が「単一の属性」(a single property) を指示するものであり，名詞が「カテゴリー化」を表すものであるという Wierzbicka (1988: 468, 472) の説を取り上げ、次のように論じる．すなわち，形容詞が強意の副詞によって限定されうることは形容詞の「単一の属性」を指示するという特徴から説明される．また形容詞が名詞として用いられる場合の ①所属人称が付されることが多いこと，②対義語同士を組み合わせた複合構造を取ることがあること，③ [N-GEN A] / [N A-PROP] という構造をとり「(名詞) の一部分」という意味を表すことがあること，といった特徴は形容詞が「カテゴリー化」したものであると説明している．上記の諸特徴こそが形容詞を名詞と分かつ「単一の属性」「カテゴリー化」の裏付けになっている，というのである．

山越 (2000) による上記の説明は，すなわち「単一の属性」を指示する形容詞が名詞として用いられるためには，何らかの「カテゴリー化」の操作を要するということを示したものであると言える．これに対して，形容詞に格接辞を付すこと (あるいは，名詞として用いられること) は，単に形容詞による被修飾語が省略されたものであるとの説明をする先行研究もある．例えば清格尔泰 (1991: 188) は「形容詞はときにその修飾するところの物事に取って代わることも可能である．」とし，Kullmann and Tserenpil (2015: 213) は「モンゴル語の形容詞は (被修飾) 名詞が脱落して名詞のように用いられる場合以外に屈折することはない」と説明している．

2.2. 先行研究のまとめと問題点

山越 (2000) は形容詞と名詞を，両者が通言語的に有し得そうな意味的な特徴からも区別できることを示した．形容詞が名詞として用いられるとき、その形容詞は「カテゴリー化」していると説明している．他方、清格尔泰 (1991), Kullmann and Tserenpil (2015) のように形容詞が名詞として用いられるのは，形容詞が典型的に持つ被修飾語名詞に取って代わられた場合であると見る向きもある．

いずれの先行研究においてもモンゴル語の形容詞が格接辞を付して名詞的に扱われうることは明らかであり，ではなぜモンゴル語の「形容詞」は名詞的に扱われるのか，というところが論点になっている．しかしそこでは，具体的にどの語が形容詞に該当し[3]，あるいは形容詞であると見なすべきか議論を要するかについて示されていない．モンゴル語の形容詞と名詞は常に明確に区別されるものではなく，両者の間には形容詞らしさと名詞らしさの程度の段階的な違いがあるのではないかと考える．それぞれの語について，格接辞が付されて用いられる頻度も一様ではないのではないかと思われるが，こうした点について先行研究では言及が無い．

3. 調査

3.1. 目的

モンゴル語における形容詞と呼ばれる語が，それぞれどれほど名詞的であるのかを格接辞の現れという観点から検討する．

将来的に本研究は，モンゴル語の形容詞とは何かという品詞論的な検討を統語や意味など複数のレベルから行っていくという展望がある．しかし本研究ではあくまで「格接辞を付しうる」という形態的な特徴について実態の調査を行うものである．山田 (2022, 2023a) などで示唆されているように，純粋に形

[3] 典型的な形容詞の候補となる語の例示は 清格尔泰 (1991), Kullmann and Tserenpil (2015) いずれにも見られるが，形容詞と非形容詞の境界線にあるような語，形容詞なのか判断に迷う語などが提示されない以上は，開いたクラスを成す形容詞の範囲を規定することにならないと考える．

態的な根拠のみから「形容詞」を議論することは難しい．「形容詞」がどのような語を修飾するのか (部分的に Yamada 2023, 山田 2023b で検討)，どのような語に修飾されるのか，どのような語を支配するのか，あるいはさまざまな述語の主要部としてどのように使用されるのか，などの検証が必要であるが，いずれも今後の課題とする．本稿では「形容詞」が有する名詞的な性質を，格接辞が名詞と同程度に付されるのか否かを問うことで考察するに留める[4]．

3.2. 調査方法

個々の形容詞が名詞として用いられる頻度を明らかにするために，形容詞が文中で格接辞を伴って現れる頻度を調査する．典型的な名詞が格接辞を伴って現れる頻度と比較し，形容詞と名詞の用いられ方の違いを示す．具体的には，形容詞は格接辞を付さない形式で名詞修飾語として用いられる用法が多い分[5]，名詞よりは格接辞が付される頻度が低くなると予想される．また付されうる格接辞の種類に名詞との間で違いが現れるのかも観察する．

調査に際しては，Leipzig Corpora Collection (ライプツィヒ・コーパス) で公開されているモンゴル語コーパスのうち，2011 年のオンラインのニュース記事を収集した newscrawl_2011 を用いる．収録語数は 5,241,858 で，ライプツィヒ・コーパスの中では最大規模のモンゴル語コーパスである．同コーパスサイトに用意されている検索システムは単語の検索のみ可能で、途中にスペースを含む複数の語の並びや，正規表現などを用いて語の一部を検索するということがサポートされていないという欠点がある．しかしここでは，山田 (2022, 2023a) の調査に合わせる形でこのコーパスを主に用いることとした[6]．この他，補足的に Sketch Engine 上で公開されている mnWaC16 というコーパスも必要に応じて用いる．こちらはオンラインニュース記事と Wikipedia の記事を収録したコーパスで，収録語数は 6,104,565，ワードリスト (Wordlist) 作成機能などが備わっている．ワードリスト作成機能を用いると，コーパス全体の出現形やある特定の語形の語を出現頻度の高い順に列挙したリストが作成される．これを利用して，3.3 で示す調査語彙の追加，4.2 で示す比較対照のための語彙の選定を行う．

次節で示す調査語彙それぞれにつき，格接辞を付した形式を 1 つ 1 つライプツィヒ・コーパスの検索窓に入力して検索し，検出数を記録していく．モンゴル語の格接辞は次に示す 6 種類を調査対象とした．

---

[4] 本稿では単独の「形容詞」と形容詞句・形容詞節の間の線引きもしていない．モンゴル語では主語や必須項が必ずしも文中に現れるとは限らず，これらに一致する所属人称のカテゴリーも必須のものではない．こうした点で語・句・節の境目は設定しがたく，現時点で筆者はこれらを区別するアイディアを有さない．本稿で対象とする「形容詞」の中には durtaj「～は…が好きだ」や bayan「～は…が豊かだ」などのように項を 2 つとるものもあり，こうした項を従えた語も一緒くたに「形容詞」として扱っている (そもそも項をとるとは何かも決め難い)．単独で修飾語などとして用いられている形容詞も全て形容詞節であると見る見方もありうるが，ひとまず本稿では当該の節が有する連体修飾節や名詞節としての機能を決定づけるのはその主要部たる述語形容詞の性質によるものであると考え，語・句・節の区別をしなくても本稿における調査に影響を与えるものではないと考える．

[5] 格接辞などの屈折接辞の付されない裸の名詞は，文中では次のような機能のいずれかを担う．すなわち主語，他動詞の目的語 (基本的に不定の名詞句で動詞の直前位置に限られる)，名詞述語，並列される名詞句の最後部位置以外の要素，複合語の最後部位置以外の要素 (「隠れた n」と呼ばれる語彙的に条件づけられた交替語幹形を有さない場合．この交換語幹形をも裸の名詞であると見做すこともありうる)，呼びかけなどの独立成分，その他，一部の場所や時間を表す副詞的成分，などである．形容詞の場合はこれに加え裸の形で修飾語としての機能を持ちうる．

[6] このコーパスはレジスターの均衡が取れたコーパスとは言えず，モンゴル語書き言葉の総体を代表するものとは言えない．ただしこの状況はウェブ上で公開されている他のモンゴル語コーパスでも事情は同じである．(オンラインの) 新聞記事の文体が本研究における形容詞の現れにどのように影響するのかは不明であり，今後解明していかなければならない課題である．

(4) モンゴル語の格接辞

属格	「～の」	-Yn, -Y, -n
奪格	「～から」	-AAs
与位格	「～に，で」	-d
対格	「～を」	-Yg, -g
造格	「～で」	-AAr
共同格	「～と」	-tAj

モンゴル語の格に関する考え方としてゼロ形式の主格を立てる考え方もありうる．こうした主格形の形容詞が，文中において例えば主語として機能するケースについても，形容詞の名詞らしさを調査したいという目的からしてもちろん研究対象とすべきであるが，少なくともコーパス検索によって区別しうる形式上の問題から今回は調査対象からはずした[7].

その他，方向格 =RUU などのように綴り上分かち書きされることの多い要素については，コーパスの制約上調査対象から除外した.

上記 (4) の形式に加え格接辞の後ろに再帰所属接辞 -AA が付された形式も検索した．しかし今回はこの再帰所属接辞の有無が調査結果に影響しているとは思われなかったため，とくに断りのない限り再帰所属接辞の有無に関係なく格接辞の付いた形として計上した．格接辞を伴わずに再帰所属接辞が付されている形式も念のため検索したが，4 節で見る調査結果には含めていない[8].

---

[7] 格接辞の付されない形式の用法については注 5 を参照のこと．試みに意味グループ「良悪」に含まれる 27 語について，格接辞の付かない形をライプツィヒ・コーパスで調べ，得られた検索結果 (検出数延べ 21,171) のそれぞれ上から 100 文 (検出数が 100 に満たない場合は全ての例文．おそらく検索結果はデータ内部の登録番号順に配列されており，並べの規則については知り得ないが毎回同じ順番に表示される) について精査し，格接辞の付かない「形容詞」が名詞句として用いられているケースの出現率を調べた．結果として，精査した例文 2,326 のうち名詞句として用いられているケースは 79 例 (3.40%) であった．実例として ewgüj「不快だ」を含む例を示す.

(a) *Xarin xamg-ijn ewgüj=n' buuduul-ǰ baj-gaa xeseg.*
むしろ 全て-GEN 不快な=3SG.POSS 撃たせる-SIM いる-IPFV 部分
「むしろ一番不快なのは、撃たせているところだ」(ライプツィヒ・コーパス)

格接辞を付さない形で名詞句として用いられているように見える例が目立って多かった語として ayagüj「不快だ」と gol「中心だ」が挙げられる．しかし前者は ayagüj bol {不快だ ならば}「ひょっとすると」，後者は gol=n' {中心だ=3SG.POSS}「主に」という具合にむしろ文修飾成分として解釈されうるものがそれぞれ多かった．名詞句として用いられているのか，主語として機能しているのかなどについては今後明確な判断基準を設けて調べていく必要があるだろう.

なお，この例文 (a) に見るように，典型的な名詞ではない語句が文中で主語として機能する場合，三人称所属 =n' という要素が付されることが多いことが知られている (山越 2000 における「所属小辞」). しかしこの三人称所属はおそらく必須の要素ではなく，また三人称所属があれば主語であることを必ず示すというものでもないこと，そして正書法上は分かち書きされるため，ライプツィヒ・コーパスではこの形式を検索することができないことなどから本研究においては調査対象としなかった.

本稿では (4) で示したような格接辞の付された形式と，これらが付されない無標の形式の対立に名詞と形容詞の違いが現れると考え，ひとまず主格という格を立てない立場を取る.

[8] 通常，典型的な名詞に格接辞を付すことなく再帰所属が付されている場合，その名詞句は目的語として機能している，あるいは目的語に付されるべき対格接辞が削除されて再帰所属が付されている，などと説明される．形容詞に -AA が付された形式は，部分的にそのような機能を果たしているものが含まれる可能性もあるが，多くが検索上のゴミというべきものであった．検出数の大きかったもの (100 以上) として以下のような例がある (括弧内は検出数). öör-öö「自分で」{自分-REFL} (2473) < öör「他に」, boroo「雨」(479) < bor「茶色い」, nam-aa「党」{党-REFL}(290) < nam「低い」, xaraa「視界」(195) < xar

意味を考慮せず形式だけを見て検索しているので，語によっては様々な同綴の形式も検索結果に含んでしまっている．これらについては基本的にその数が調査結果に大きな影響を与えるものではないと判断し，断りのない限り排除していない。問題のある語については，次節以降で個々に断りを入れて示す．とくに共同格接辞 -tAj には同形で「～持ちの」という意味を表す接辞が存在し，むしろ後者の例の方が多い可能性もある．しかし後者の接辞も典型的には名詞的な語に付されるものであり，形容詞が名詞的に機能するケースを対象とする本研究の目的に適わないものではないと判断し，全く除外しなかった．

その他，考え得る綴りの誤りなどもなるべく考慮して検索した．

3.3. 調査語彙

山田 (2022) では Dixon (2010) による形容詞らしい意味の分類に基づいて，モンゴル語の形容詞の候補となる 219 語を選出した．山田 (2023a), Yamada (2023) ではこれにそれぞれ 15 語, 2 語を追加しており，現状下位分類も含めた 19 タイプ・236 語の「形容詞」のリストがある[9]．19 のタイプは次の (5) の通り．丸括弧内に山田 (2022, 2023a) での名称を示したが，本稿では扱いやすくするために下位分類を廃し，2 文字以内の名称を用いる．

(5) 「形容詞」の 19 タイプ

規模，経時，良悪 (価値タイプ「良し悪し・好き嫌い」)，美醜 (価値タイプ「美醜・衛生」)，価値 (価値タイプその他)，色彩，触覚 (物理特性タイプ「触覚で知りうるもの」)，物理 (物理特性タイプ「触覚以外の感覚によるもの」)，性格 (ヒトの性質「性格」)，健康 (ヒトの性質「健康状態，能力」)，感情 (ヒトの性質「感情」)，ヒト (ヒトの性質その他)，速度，難易，同異，評価，数量，位置，その他.

山田 (2022) では上述のような意味の分類に基づいて選出を行い，語根のみからなる単純形容詞と，派生接辞を含む派生形容詞を区別していない[10]．この他に，形態的な側面から形容詞を考えるという趣

「黒い」, xün-d-ee「人に」{人-DAT-REFL} (145) < xünd「重い」, towčoo「伝記 (『元朝秘史』という文献資料の名称を指す語の一部)」(110) < towč「簡潔な」．形容詞的であるとして想定した本来の意味 (から大きく意味が変わらず) に用いられ再帰所属接辞が付されることが多い例としては xudl-aa「嘘の」(441) が挙げられる．この再帰所属接辞が付されることが多い語はやはり名詞的に用いられやすい語であるということが言えそうであるが，例が限られるので今回は指標として用いない．

[9] この「形容詞」のリストには次のような問題がある．①和訳した意味に基づき選出したこと，②(筆者の語学的な感覚から) 形容詞らしくないと感じられる語も極力排除しなかったこと，③多義語については恣意で一意に代表させ意味分類を行ったこと，である．こうした問題点を抱えつつも典型的な形容詞を一定数選出するのには成功していると考えられ，上記のような問題が研究に与える影響については今後解明していくべき事項であると考える．

[10] 清格尓泰 (1991: 183) はこれに類する分類として性質形容詞と関係形容詞という二分法を提示している．このうち性質形容詞とは事物の性質，数量，形，色などを表すおそらく単純形容詞と，「形容詞化の程度が高い」派生形容詞が含まれるという．関係形容詞は派生形容詞のうち「形容詞化の程度が低い」もので，おそらく派生元の語が表す事物や行為状態の関係を表すものである．山田 (2022) で意味による形容詞の選出を行ったのは，こうした「形容詞化の程度」(清格尓泰 (ibid.) は級の範疇の欠如などを例として挙げているが) のような基準がいかなるものか明らかにするためであり，派生か否かで先行して線引きをするべきでないと考えたためである．なお清格尓泰 (ibid.) が性質形容詞として例を挙げる語の中には子音 n で終わる語 (本稿における対応する表記に改めると sajn「良い」, olon「多い」, cöön「少ない」, ulaan「赤い」, cagaan「白い」) が含まれている．これらの語の語末の子音 n は派生接辞を付すときに脱落するなどの性質があり，この子音 n を独立した形態素であると見る見方もある．これらの語は語根のみから成るわけではないという点で単純形容詞とは呼び成しがたい．しかしそもそもこの子音 n

旨からして,「形容詞派生接辞」を語形に含む語も調査対象に加える．モンゴル語における派生接辞についての最も網羅的な研究として塩谷 (2007) がある．塩谷 (2007) では「出名名詞接尾辞」「出動名詞接尾辞」として分類されている派生接辞の一部について，形容詞を派生するものが記述されている．こうした派生接辞を含む語について正規表現で記述し，mnWaC16 コーパスのワードリスト作成機能を用いて列挙する．このうち出現数の多いもの (出現件数 100 以上のもの) および塩谷 (2007) が例として挙げている語例，その他よく用いられる語をピックアップする．派生接辞によっては必ずしも形容詞らしい語ばかりを派生するとは限らないので，それぞれについて『正書法辞典』[11]を参照し形容詞であると記載されているもののみを選び出す．これらの語を再度ライプツィヒ・コーパスで検索し直し，出現件数 100 以上のもの[12]を本研究における調査対象に加えた．調査対象に加えた語は次の 51 語である．

派生接辞別の追加調査語

(語のあとの鍵括弧はおおよその和訳[13]．丸括弧内の数字はライプツィヒ・コーパスでの検出数．そのあとに“＞”で示されるのは，形容詞の意味タイプ．これがない場合は一括して「その他」に充てる．)

-güj : ügüj「無い」(2,222), argagüj「仕方ない」(1,341), ayuulgüj「安全な」(957), bolomǰgüj「可能性がない」(900), magadgüj「かもしれない」(894), xamaagüj「関係ない」(628), xereggüj「必要ない」(576)＞良悪, erxgüj「権利がない」(432), yosgüj「無礼な」(390)＞性格, xučingüj「無効な」(386), gajgüj「大丈夫な」(355), ünegüj「無料の」(319)＞価値, šaardlagagüj「必要ない」(283)＞良悪, aǰilgüj「無職の」(272)＞ヒト, zambaraagüj「散らかった」(256)＞美醜, garcaagüj「疑いない」(231), yalgaagüj「違いがない」(210)＞同異, suraggUj「消息がない」(203)　以上 18 語

※塩谷 (2007) では -güj が形容詞を派生するものであると明言はしていない．山田 (2022) の調査語には -güj を含むものがすでに 13 語挙げられている．この派生接辞を含む語は『正書法辞典』の見出し語になっておらず，品詞の判断ができないため，選出には次のような基準を用いた．①ügüj「無い」は，この派生接辞を含むものというよりもこの派生接辞の由来というべき語であり，排除する理由が無いのでここに含めることとした．なお,『正書法辞典』には ügüj という語の品詞の記載がない．②山田 (2022) の「形容詞」を語根としてこれに -güj を付したものは，ここでは除外した (todorxojgüj, bagagüj, cööngüj．これらは「形容詞」の特殊な否定形であると考えられる．この語形に関しては稿を改めて別途考察したい)．③-güj は「～がない」の意味でかなり生産性の高い要

の扱いについては不明な点もあるため，このような問題があることを指摘するのみに留める．

[11] Mongol xelnij zöw bičix dürmijn ǰuramlasan tol'. モンゴル語の規範的な綴りが分かるオンライン辞書で，品詞情報も掲載されている．ただしその品詞分類の基準については記載がなく，ここではあくまで参考として使用した．

[12] 山田 (2022) では「形容詞」の選出に際してライプツィヒ・コーパスでの検索件数 20 以上を条件とした．山田 (2022) は意味分類を基準として形容詞の候補となる語をなるべく多く選出するという方針であったため，出現頻度が低いものも幅広に選出した．一方，今回は派生接辞を基準として形容詞であるらしいとの判断がすでになされたものを選び出すものであるので，山田 (2022) におけるよりは基準となる数値を厳しく設けた．4.2 の表 2 から分かる通り調査する格接辞の付された形式は格接辞の付されない形式に比して検出数が小さいので，なるべく多くの用例を得る観点から基準を 100 以上のものと設定した．格接辞の付された形式の検出数を格接辞の付されない形式の検出数で割った百分率の平均は 14.1 であるので，格接辞の付されない形式が 100 件検出される語の場合，平均的には格接辞が付された形式は約 14 件検出されるはずである．もし各種形式 (格接辞 6 種それぞれにつき再帰所属接辞の有無を別形式と見なし 12 形式) が均等に現れるとしたらそれぞれ 1 件ずつ検出されるであろうと考え，100 を 1 つの基準とした．

[13] 以下，追加調査語に限らず「形容詞」にはおおよその和訳しか与えておらず、多義語などの配慮はしていない．また例文中で実際の用例を示す場合には，適宜例文に合った和訳を付してある．

素であることから，雑多な語が調査語に入るのを避けるため，ライプツィヒ・コーパスで見出し語形が 200 件以上検出されるもののみを選出した[14].

-lAg : bayalag「豊富な」(523)＞価値, nijtleg「共通の」(214), zerleg「野生の」(115), šineleg「新しい」(109)＞経時　以上 4 語

※山田 (2022) の調査語には -lAg を含む語がすでに 6 語挙げられている.

-msAn : ǰiremsen「妊娠した」(114)＞健康　以上 1 語

-ngUj : xar’canguj「相対的な」(383), delgerengüj「詳細な」(211), bolowsronguj「教養ある」(140)＞健康 (ヒトの能力を含むので)　以上 3 語

-tAj : yostoj「礼儀正しい」(6,405)＞性格, xeregtej「必要な」(4,490)＞良悪, bolomǰtoj「チャンスがある」(1,475), šaardlagataj「必要な」(1,170)＞良悪, ayuultaj「危険な」(369), xamaataj「関係がある」(116)　以上 6 語

※-tAj は上述 -güj の対義形態素であり，やはり生産性が高い．ここでは-güj と同じ選出基準も用いず，単に -güj を含む語として取り上げたものの対義語 (-güj の代わりに -tAj を付した語形) のみを扱うこととした．なお，山田 (2022) の調査語には -tAj を含むものが 41 語挙げられている．-t についても -tAj と同様の理由から選出しなかったが，Yamada (2023) で追加された調査語のうち gajxamšigt「驚くべき」はこの接辞を含む例である.

-x : ixenx「多数の」(870), dijlenx「多数の」(371), cöönx「少数の」(118), olonx「多数の」(102)　以上 4 語，全て数量タイプ

※塩谷 (2007: 30) では -nxi という代表形で掲載されている.

-rxAg, -rxUU : uularxag「山がちな」(121)　以上 1 語

-č : ünenč「正直な」(282)＞性格, xuuramč「嘘の」(300)＞評価　以上 2 語

-g : xamag「全ての」(439)＞数量　以上 1 語

※山田 (2022) の調査語のうち，celmeg もこの派生接辞 -g を含む.

-gAlAn : amgalan「平和な」(178)

-gAr : gyalgar「光沢のある」(108)＞色彩

-gAj : tusgaj「特別な」(1,444)＞良し悪し, zadgaj「開いた」(185)＞物理

-mAl : xijmel「人工の」(193), tügeemel「普遍の」(124)

※山田 (2022) の調査語のうち，togtmol もこの派生接辞 -mAl を含む.

-nxAj : yörönxij「一般的な」(1,815)

-UU : daguu「沿った」(2512), dawuu「優れた」(457)＞良悪, zörüü「ズレた」(142)＞評価, sogtuu「酔った」＞健康

※これに該当する語は山田 (2022) の調査語にも多数含まれていそうだが，具体的にどの語がこれにあたるのかは判断しかねる.

※塩谷 (2007) が挙げる形容詞を派生するとされる接辞のうち，以下のものは上記の条件に合う語が得

[14] mnWaC16 で -güj が付された語をリストアップすると，まず動詞の否定形が多数検出される．ここでは動詞語幹に -x, -AA, -sAn, -dAg, -l, -š, -lt, が付された形式に -güj が付されたものは動詞の否定形であると見做して除外した．その後 mnWaC16 で 100 件以上検出された語についてそれぞれライプツィヒ・コーパスで再調査を行ない，200 件以上検出されたものを選出する．200 と設定したのは，単純に 100~200 の間に意味的に除外したい語が含まれていた (例えば sajgüj (xaa sajgüj「遍く」という熟語的な表現の一部)170 件, tölbörgüj「料金無し，無料」149 件，doošgüj「下ではない，(～を)下回らない」124 件．ただしとくに「料金無し，無料」は積極的に形容詞でないとする根拠はない) ためで，200 という数値は恣意的なものである.

られなかった．このうち -wtAr と -dUU については山田 (2023a) で該当する語が僅少であることが示されている．-sAg は山田 (2022) における najrsag「優しい」, nöxörsög「付き合い良い」 がこれに該当する．

-wAr(名詞, 動詞), -wtAr, -gA, -gč, -dUU, -ǰeer, -mAg, -msAg, -ncAr, -sAg, -AAn, -mxAj, -mtgAj, -mšig, -ngA

※さらに次のような単独の子音から成る接辞は無数にあるため，mnWaC16 コーパスからの検索はしなかった．このうち -d については「主として場所を示す名詞語幹または語根に接続し，位置を表す形容詞を形成する」(塩谷 2007: 13) とされる．こうした語群については「時位詞」といった品詞が立てられることもあるもので，ひとまずここで扱うことは保留する．

-d, -n, -r, -m

4. 調査結果

以下では 4.1 において，そもそも形容詞に格接辞が付くとはどういうことであるのか概観したのち，4.2 で名詞と「形容詞」それぞれについて格接辞の付された形式の出現頻度を比較する．4.3 では「形容詞」の意味タイプごとに格接辞の付された形式の出現頻度の違いを観察する．

4.1. 格接辞が付された「形容詞」の用法

格接辞が典型的には名詞の屈折範疇であると考えるならば，どのような状況下で格接辞が「形容詞」に付され、どのような機能を果たすのかが問題となる．格接辞が「形容詞」に付される状況とは，大まかに言えば①「形容詞」が「～こと」という意味を成すなど，名詞的な意味を実現している場合 (4.1.1), ②格形式を要求する構文に「形容詞」が組み込まれたとき (4.1.2), ③その他 (4.1.3), に分類できる．以下，この①～③の順に概観していく．

4.1.1. 名詞的な意味の実現

「形容詞」が名詞的に用いられている場合，端的には「形容詞」が名詞化している，あるいは名詞的な意味を実現していると説明しうるケースこそが典型的なものであると思われる．それはすなわち「～モノ」「～ヤツ」などと訳しうる具体的な指示物がある例か，「～コト」と訳しうる抽象な概念を指し示す名詞である[15]．以下，例文に出典の記載がないものは全てライプツィヒ・コーパスから得られた用例である．

(6) *oč-ood* *najz=nar-t-aa* *ög-öx-öd* *xeregtej* *ge-ǰ* *<u>xyamd-aas</u>=n'*
行く-ANT 友達=PL-DAT-REFL 与える-FUT-DAT 必要だ という-SIM 安い-ABL=3SG.POSS
xed *gurwan* *nom* *aw-laa.*
いくつ 3 本 取る-PST
「友だちに持って行かないとといって，安いのを３冊ばかり買った」

(7) *C.Elbegdorǰ* *anxn-aas-aa* *augaa* *dalajc-taj* *duugar-č,* *<u>ix-ijg</u>* *sana-ǰ*
PN はじめ-ABL-REFL 大きな 規模-PROP 声を出す-SIM 大きい-ACC 想う-SIM
tüün-ijg *güjceldüül-ǰ* *yaw-san* *xün.*
それ-ACC 叶える-SIM 行く-PERF 人
「Ts.エルベクドルジ氏は当初から多方面に声を上げ，大きなことを考え、それを叶えて来た人物だ」

[15] 名詞化した際に「～モノ」と訳しうるか「～コト」と訳しうるかは区別して考察すべきであるが，本稿における議論ではこの点十分に考慮できていない．

(6) は *xyamd*「安い」に奪格接辞が付され，「～の一部を／～の中から (買う)」という意味の項を成している．文脈上「安い本」の含意になっていることは明らかで，Kullmann and Tserenpil (2015) の言う「名詞が脱落して名詞のように用いられる」(ここでは「安い本」の「本」が脱落して，*xyamd*「安い」が「安い本」の意味の名詞のように用いられている) 例であると言えよう．

一方 (7) は *ix*「大きい」(～「多い」) に対格接辞が付され，*sana_*[16]「想う、考える」という動詞の目的語項となっている．この文を読む限りでは[17]，何か具体的な意味を有した名詞が「脱落」したとは考えにくい (何か具体的な意味を有した名詞が「脱落」したと解釈しなければ意味を解し得ない，ということはない)．強いて言えば「こと」を意味する züjl などのような形式名詞が「脱落」しているとも見うるが，(6) と較べるとそのような語を想定する蓋然性は低いように思われる．すなわち，(6) では「安い本から，３冊の本を買った」というような同じ語「本」の重複を避けるために名詞が脱落したとのだと説明することはできなくもないが，(7) では「脱落」がなぜ起こったか，(6) と同じようには説明できない．こうした例を見ると「被修飾名詞が省略・脱落した際に，その名詞に起こるはずだった屈折が形容詞に引き継がれる」というような説明が形容詞に格接辞が付された全ての場合に適用可能であるかについては疑問を呈したい．ただし，本稿におけるようなコーパス調査ではこの点について検証することができないため，これ以上の議論は保留することとする．

次の例 (8) (9) も同種の例であると言えよう．

(8) *xyatad-uud* *xuučin-d-aa* *“ta* *xool-oo* *id-sen=üü”* *xemee-n*
中国-PL 古い-DAT-REFL 2SG.HON 食事-REFL 食べる-PERF=Q という-ASS
mendel-deg *baj-ǰ.*
挨拶する-HBT ある-PST
「中国の人々は昔，「ご飯食べましたか」と挨拶していたそうだ」

(9) *delxij-d* *aldar-taj,* *olon* *uls-ad* *xünd-tej* *tijm* *tom* *setgüül-ijn* *nüüren* *deer*
世界-DAT 名前-PROP 多くの 国-DAT 重い-PROP そんな 大きな 雑誌-GEN 表紙 上
mongol-yn *xeer* *xödöö* *baj-san* *ter* *xörög* *yaa-x-aar-aa* *gar-dag* *bilee.*
モンゴル-GEN 草原 田舎 いる-PERF その 肖像 どうする-FUT-INS-REFL 出る-HBT だろうか
「世界的に有名で，国際的に重要性のある，そんな大きな雑誌の表紙に，モンゴルの草原にいるような顔がどうしたって出ることがあるだろうか.」

(8) では *xuuči n*「古い」に与位格接辞が付され，「～(の時) に」という時を表す成分となっている．4.3. で後述するように，経時タイプの「形容詞」は「～とき」(ここでは「古いとき」≒「昔，以前」) という時点を表す意味で用いられることが多い．ここでも üye「時，時代」のような語が省略・脱落していると見ることも可能であるが，その必然性は (7) 同様に無いと考える．

(9) では *xünd*「重い／重要だ」という語に「～を持った」という意味を成す -tAj が付されている[18]．

---

[16] 動詞語幹を示す場合には，語幹の末尾に _ (アンダーバー) を付してこれを表す．
[17] ライプツィヒ・コーパスでは前後の文を参照することができないので，十分な文脈は分かり得ない．
[18] 共同格接辞と同形の接辞．筆者はこれらを別のものであると考えるが，3.2 で触れた通りコーパスを検索して数え上げるという本稿における研究方法の都合でこれらを選り分けることはしなかった．この接辞は「～がある」という存在や，「～を持っている」という所有などの意味を表すもので，典型的には名詞に付されるものであり，本稿における「形容詞」の名詞らしさを調べるに当たっては格接辞と同様の力を持っているのではないかと考えたからである．3.3 でも派生接辞として紹介されているが，本稿においてはその生産性の高さから屈折接辞に並び立つものであると考える立場を取っている．

「重さを持った (雑誌)」という修飾成分になっているとも読めるし，「(その雑誌は) 重さを持っている」という述語的な成分になっているとも読みうる．ここでは「重いこと／重要なこと (を有している)」と読むよりも「重さ／重み／重要さ／重要性」という，形容詞の有する程度性に着目した表現であると言える．この場合，ner「名前」, üüreg「責務」などのような名詞を形容詞の被修飾語として想定しても良いが，(7)(8) と比してもその語の選択は (文脈が不十分である以上) 恣意的にならざるをえず，むしろ被修飾語は想定しない方が妥当であるように思われる．

ところで山越 (2000: 104) では対義となる形容詞を組み合わせて「同一の評価基準」という一つの概念を表す複合名詞になることが示されている．これは上記の程度性に着目した表現を指すものと思われる．例としては xaluun xüjten {暑い 寒い}「暑さ，温度」，sajn muu {良い 悪い}「よさ」，xünd xöngön {重い 軽い}「重さ」といった例が挙げられている．ただしモンゴル語には類義・対義の語を組み合わせた連語的表現[19]がよく見られ，形容詞がこれを成す場合は名詞として機能することが多いようである (amar amgalan {平穏 平和}「安寧」, ariun cewer {清潔 清潔}「衛生」など)．つまり名詞としての機能を果たすのは，対義語の組み合わせであることではなく連語的表現そのものにあると言える．

以上，「形容詞」が名詞的な意味を実現するケースにも「～もの」「～こと」「～とき」「～さ／～具合・程度」などの意味の違いがあり，被修飾語が脱落・省略されたものとは見にくいものもあることを見てきた．ここで次の (10) のようなタイプも，(6)~(9) と同列上に考えて良いかもしれない．

(10) *öwgön-ijg* *xen=č* *too-goo-güj-d* *buximd-aǰ* *ter* *zaluu-gijn* *ar-aas*
老人-ACC 誰=も 気に掛ける-IPFV-NEG-DAT 苛立つ-SIM その 若い-GEN 後ろ-ABL
oč-in, *xööyö* *muu* *nusgaj=min'.*
行く-ASS INT 悪い 鼻垂れ=1SG.POSS
「老人に誰も気を掛けなかったことに腹を立て，その若者の後ろから近づいて『おい鼻たれ小僧！…」

(11) *manaj* *sonin-toj* *olon* *ǰil* *xamtar-č* *aǰilla-san* *biznyes-ijn* *bajguullaga,*
我らが 面白い-COM 多くの 年 協力する-SIM 仕事する-PERF ビジネス-GEN 団体
aǰ+axuj-n *negǰ-ijn* *zar* *surtalčilgaa-g 1-2* *sar-yn* *xugacaan-d web* *sajtan-d-aa*
産業-GEN 単位-GEN 広告 広告-ACC 月-GEN 期間-DAT ウェブ サイト-DAT-REFL
ünegüj *taw'-ǰ* *ryeklamda-ǰ* *ög-nö*
無料の 置く-SIM 宣伝する-SIM 与える-NPST
「弊紙と多年に渡り協働関係にあったビジネス団体や産業機関の広告を１～２カ月間ウェブサイトに無料で掲載して宣伝いたします」

(10) では *zaluu*「若い」が，(11) では *sonin*「面白い」がそれぞれ属格，共同格接辞を伴って名詞句として用いられている．これらが (6)~(9) と異なるのは，いずれも意味の特殊化が進んでいることである．

(10) は，(7)(8) と同様に xün「人」という語の省略・脱落の可能性を見出しうる．しかし「若い」「老いた」といった世代に関する語が，この語によって区分される人などを表す名詞化・語彙化が起こりやすいことについては山越 (2000) にも指摘がある．ここで現れた zaluu「若い」という語は，単独で使用された場合に単に「若い人，若者」の意味で用いられるというよりは「若い男性，少年」という性別の情報も加わる点に注意したい (cf. sajxan zaluu {美しい 若い}「(男性が) カッコいい」, najz zaluu {友だち 若い}「ボーイフレンド，彼氏」, “zaluu” を呼びかけに用いる場合は男性相手に限る，など)．こうした

[19] モンゴル語では xoršoo üg と呼ばれる．

意味の特殊化は，名詞化という派生が起こったと見るべき根拠となりうる．

(11) は，sonin「面白い」という語が「新聞」という意味の名詞として用いられている例である[20]．sonin「面白い」の被修飾語として yum「もの」や，medee「ニュース」などのような語があった可能性もあるが，また実際にそのような複合語の縮約である可能性もあるが，訳語「面白いもの」「面白いニュース」では文意が成立せず，実際にここで使用されている sonin という語の意味が特殊化していることが分かる．

これらの意味の特殊化は語彙的なものであり，有形の接辞を付すことなく起こった品詞転換，あるいは派生であると見做す考え方の裏付けになるものでると考えられる．ただし，(6)~(9) で見た「名詞的な意味の実現」と，(10)(11) のような名詞化のような現象の間には，実際のところ明確な線引きをすることは難しいものと思われる．

4.1.2. 格形式を要求する構文

「形容詞」に格接辞が付される状況としては，格形式を要求する動詞や後置詞に「形容詞」が支配されるケースがある．これは 4.1.1 で見た「名詞的な意味の実現」と同一のレベルのものではなく，また必ずしも明確にどちらかに振り分けられるものでもない．ただし，格形式を要求する構文において「形容詞」は名詞的な意味を実現することなく格接辞を付す例もあるということ，また「形容詞」の多用な格形式は多くが動詞や後置詞の要求によって成立するものであることから，本項のような分類は必要である．さらに動詞や後置詞以外に，「形容詞」特有の構文も存在する．以下では，まず「形容詞」特有の構文について紹介し，次いで格接辞ごとに代表的な構文を取り上げる．

形容詞には，語を重複して属格または奪格で結ぶ強意表現がある (清格尓泰 (1991: 187) における「最上級」) (12)(13)．(13) の例では「形容詞」である xurdan「速い」だけでなく xüčten「強者」という名詞も奪格を用いた強意表現を成している．同根の語 xüčtej「強い」からの類推か．

(12) *ge-x-d-ee=l* *muu-gijn muu* *amyerik* *kinon-y* *xuwilbar.*
という-FUT-DAT-REFL=EMP 悪い-GEN 悪い アメリカ 映画-GEN コピー
「といっても，最悪のアメリカ映画のパクりだ」

(13) *mön* *ard-yn* *bagš,* *gaw'yaat* *tamirčin* *d.sereeter* *bag,* *tamirč-d-ad-aa*
また 人民-GEN 教師 功績ある スポーツ選手 PN チーム スポーツ選手-PL-DAT-REFL
xand-an *xurdn-aas xurdan,* *xüčtn-ees* *xücten* *baj-x-yg,* *xüs-č,* *čin* *setgel-ijn*
向ける-ASS 速い-ABL 速い 強者-ABL 強者 いる-FUT-ACC 望む-SIM 誠 心-GEN
üg-ee *xel-lee.*
言葉-REFL 言う-PST
「さらに国民的教師であり功績あるスポーツ選手でもある D.セレーテル氏はチームや選手たちに向けて最速・最強であることを望み，心からの言葉を述べた」

次いで格接辞ごとに，「形容詞」とともに用いられやすいケースを見ていく．

「形容詞」に属格接辞が付される例の多くは，属格支配の後置詞 tuxaj「～について」や tölöö「～のために」を伴うものである．

[20] より正確には「新聞」の換喩によって「新聞社」の意味で用いられている例である．

(14) *ug-t-aa=bol* *xuul', zöwxön* *xuuli-jn* *xeregǰilt=l* *baj-ǰ* *šudarg-yn* *tuxaj*
本来-DAT-REFL=COND 法律 ただ 法律-GEN 執行=EMP ある-SIM 公正だ-GEN について
yarigd-ax *učir-taj.*
話される-FUT 理由-PROP
「本来ならば法律が，法の執行のみがあるばかりで，公正さについて議論されるべきだ」

(15) *ard* *tümn-üüd-ijn-xee* *sajn* *sajxn-y* *tölöö* *xamtra-n* *aǰilla-x* *bol-no*
人民 万人-PL-GEN-REFL 良い 美しい-GEN ために 協力する-ASS 働く-FUT なる-NPST
「市民が素晴らしくあるために力を合わせる」

「形容詞」に奪格接辞が付される例としては，奪格支配の後置詞 gadna「～以外に」や bol-ǰ {なる-SIM}「～のせいで」がある．

(16) *baktyeri-jn* *bordoo=n'* *xeregle-x-ed* *xyalbar-aas gadna* *xyamd,* *ür+dün-tej*
バクテリア-GEN 肥料=2SG.POSS 使う-FUT-DAT 簡単だ-ABL 以外 安い 結果-PROP
ed *ge-ne.*
もの という-NPST
「バクテリア肥料は使いやすいだけでなく安くて効果があるものだという」

(17) *üün-ij* *ösölt=n'* *zasg-ijn* *gazr-yn* *buruu-gaas* *bol-ǰ* *baj-na* *šüü* *dee.*
これ-GEN 起こり=2SG.POSS 政治-GEN 所-GEN 間違い-ABL なる-SIM ある-NPST SFP SFP
「これが起こったのは政府のせいだ」

「形容詞」に与位格接辞が付される例として動詞 toocogd_「～と見做される」に支配されるケースがよく見られた．

(18) *ene=n'* *xamg-ijn*[21] *büdüüleg-t* *toocogd-dog* *ge-sen* *šüü.*
これ=3SG.POSS全て-GEN 無礼だ-DAT 見做される-HBT という-PERF SFP
「これは最も無礼だと見做されるそうですよ」

「形容詞」に対格接辞が付されるのは (6) で見たような他動詞目的語になる例が典型であるので繰り返しを避けるが，*xüjtn-ijg aǰra-lgüj*「寒さに気付かない」, *xaluun-yg tewč_*「暑さに耐える」, *šuluun-yg erxemle_*「まっすぐさを大事にする」, *xer xüčtej-g xaruul_*「どれくらい強いかを示す」, *xecüü-g tuul_*「困難を乗り越える」など,「形容詞」を目的語に取りやすい動詞述語というのがありそうだ．

「形容詞」に造格接辞を要求する決まった構文のようなものは，コーパス検索では見いだせなかった．造格を要求する熟語的な表現として例えば bar-ax-güj {終わる-FUT-NEG}「～ばかりでなく」が知られている．ウェブ上から例を探してみると,「形容詞」に造格接辞を付した次のような例が見いだせる．

(19) *xarin* *üün-ijg* *uxamsarla-san=n'* *xowr-oor* *bar-ax-güj,* *ül* *toomsorlo-x*
しかし これ-ACC 分かる-PERF=3SG.POSS 稀だ-INS 終わる-FUT-NEG NEG 注意する-FUT

[21] xamg-ijn {全て-GEN} という語は最上級的な使われ方での「一番」という意味を表す語で (4.2 表 4 の上でも触れる),「形容詞」を修飾する要素として頻用のものである．この語が属格形を取っていることは「形容詞」の名詞的性質を表すものである可能性もあるが，頻度が高く用法が特殊な定型表現であると見るべきである．

xandlaga eldeg üzegd-deg šüü dee.
傾向 豊富 見られる-HBT SFP SFP
「でもこれが分かる人が少ないばかりでなく，関心を払わない傾向もよく見られるじゃないですか」(インタビュー記事 https://eguur.mn/52243/ 2023/12/08 最終閲覧)

「形容詞」に共同格接辞が付される例としては xolboo-toj「～と関係がある」の例がコーパスから見いだされた (20). コーパスから用例は見いだせなかったが，adil「同じだ」も共同格を要求するもので，ウェブ上から (21) のような用例を得ることができた.

(20) *xišig xuwaarilalt-yn tögöldöršil=n’ yörönxij-d-öö bajgali-jn bayalag-taj xolboo-toj.*
寄付 分配-GEN 革新=3SG.POSS 一般-DAT-REFL 自然-GEN 豊かだ-COM 関係-PROP
「寄付金分配の革新は，一般に自然の豊かさと関係がある」

(21) *ündsen xuul’ öör-öö togtwor-toj baj-x yostoj-toj adil, tajlbar=n’*
基本 法 自分-REFL 安定-PROP ある-FUT 道理がある-COM 同じ 説明=3SG.POSS
togtwor-toj, ganc negxen toxioldol-toj xolbo-son baj-ǰ bol-ox-güj.
安定-PROP 唯一 たった一つ 場合-COM 関係する-PERF ある-SIM なる-FUT-NEG
「憲法それ自身が安定しているべきであるのと同様に，説明は安定していて，たった一つの事例としか関係しないようではいけない」(インタビュー記事 https://news.mn/r/2284820/ 2023/12/08 最終閲覧)

さらに共同格接辞と同形で，「～を持った」という意味を成す -tAj という接辞があり (cf. (9)), これを用いた構文 [名詞 形容詞]-tAj[22] で「形容詞」に付された形が現れる.

(22) *odoo xüüxd-üüd dawsag sul-taj bolčix-oǰ.*
今 子ども-PL 膀胱 弱い-PROP なってしまう-PST
「今の子どもたちは膀胱が弱くなってしまったそうだ」

4.1.3. その他

「形容詞」が格接辞を付して用いられるケースとして，上記の 4.1.1, 4.1.2 に当てはまらないと思われるものをここでまとめる．具体的には動詞を修飾する用法の「形容詞」が取る形式と，属格が付されたときの用法である.

モンゴル語の形容詞はそのままの形で (形態的操作をせずに) 動詞修飾成分にもなりうるが，同時に一部の形容詞は，造格接辞を付して動詞修飾成分になることがあることが知られている (Önörbayan nar 2022: 104-105).

(23) *mal süreg=n’ zun-y turš aaǰim targal-ǰ maxn-y nööc nemegd-ene.*
家畜 群=3SG.POSS 夏-GEN 間 遅い 太る-SIM 肉-GEN 蓄え 増える-NPST
「家畜の群は夏の間ゆっくり太り、肉の蓄えが増える」

[22] 山越 (2000) でもこの構文を取り上げているが，[名詞 形容詞]-tAj という構造の解釈は筆者による．あくまでコーパス検索上の出現形では「形容詞」に -tAj が付されているが，実際にはこうした形容詞句・節に付されたものと見るべきであろう.

(24) *zes-ijn* *üne* *caašid* *aaǰm-aar* *ös-öx* *magadlal* *bij.*
銅-GEN 値段 今後 遅い-INS 上がる-FUT 可能性 ある
「銅の価格は今後ゆっくり上がっていく可能性がある」

この他，与位格接辞 -d ＋再帰所属接辞 -AA という形に見える -dAA が付された例も多く検出された．

(25) *genet* *zogsoo-ǰ* *bol-ox-güj,* *aaǰim-d-aa* *zogsoo-x* *xeregtej.*
突然 止める-SIM なる-FUT-NEG 遅い-DAT-REFL 止める-FUT 必要だ
「突然止めてはいけない．ゆっくり止める必要がある」

コーパス調査では全体的に再帰所属接辞の現れる例は現れない例より圧倒的に多いが (cf. 再帰所属接辞有り：無し 40805：6002)，一部の語では与位格の場合に限り再帰所属接辞が付された形の方が多く検出される例があった．ひょっとするとこの形式は再帰所属接辞を含むものではなく，動詞修飾的な機能を果たす接辞 -dAA であると考えるべきかもしれない (この点については 4.3 でも触れる)．

(23)~(25) はいずれも同一の aaǰim「遅い」という語の例であるが，コーパス調査の範囲ではこれらの使い分けについては知り得なかった[23]．この他，šine「新しい」のようにそのままの形では動詞修飾できないが，造格形であれば動詞修飾ができるという語もある．同一の語に 3 様の形式が用いられることもあれば，動詞修飾の際に取る形式がいずれか選ばれる語もある．

「形容詞」に格接辞が付されるケースとして属格形について取り上げる．「形容詞」の本来の機能が名詞を修飾することであるならば，名詞修飾を主要な機能とする属格形を「形容詞」が取る必要性は一見なさそうに思える．しかし実際には「形容詞」が属格を取る例は多くみられる．その多くは，意味が特殊化した (日本語訳では「形容詞＋名詞」ではなく複合語になる) ものである．

(26) 「形容詞」に属格接辞が付されて用いられる例
urt-yn duu {長い-GEN 歌}「(モンゴル伝統の) 長唄」
urt-yn xarajlt {長い-GEN 跳躍}「幅跳び」
öndr-ijn xarajlt {高い-GEN 跳躍}「高跳び」
xünd-ijn örgölt {重い-GEN 持ち上げ}「重量挙げ」
xaluun-y šil {熱い-GEN ガラス}「体温計」
dulaan-y caxilgaan stanc {暖かい-GEN 電気 発電所}「火力発電所」
xurdn-y zam {速い-GEN 道}「高速道路」
türgen-ij mašin {速い-GEN 車}「救急車」
xüčtej-n šinǰ {強い-GEN 性質}「強さ・強いという性質」

[23] コーパスからは，造格形が最も多く検出され (66 例)，次いで接辞の付されない形 (23 例)，-dAA が付された形 (14 例) が見つかった．また，aaǰim aaǰm-aar {遅い 遅い-INS} という重複形式で現れる例が多かった．なお，この語はそもそも動詞修飾しかしない語 (「副詞」) である可能性もあり，実際接辞の付されない 23 例を見るといずれも動詞修飾の例ばかりであった．それでも『正書法辞典』ではこの語について形容詞であると記載されているし，ウェブ上のモンゴル語辞書の一つ bolor tol' (https://bolor-toli.com/result?word=%D0%B0%D0%B0%D0%B6%D0%B8%D0%BC&direction=1 最終閲覧日 2023/12/09) では aaǰim alxalt「ゆっくりとした歩み」, aaǰim xögǰim「ゆっくりとした音楽」などの名詞修飾の用例が載っている．

これらは後続の名詞側を「形容詞」の本来の意味で修飾しているとは言えず，いずれも何らかの意味が加わった熟語的な表現であると言える (「長唄」は「唄」そのものの歌唱時間などが長いのではなく，長い節回しが特徴的な唄である，「幅跳び」は単なる跳躍距離の長いことではなく，跳躍距離の長さを競う競技である，など). 日本語の形容詞を前部に含む複合語が，形容詞語幹を用いた “短い語形” を用いる(「長い唄」ではなく「長唄」,「高い跳び」ではなく「高跳び」) のに対し，モンゴル語では「形容詞」に属格接辞を付すことで語形がやや長くなっているところが対照的である．モンゴル語では前部要素の「形容詞」を名詞化させることで，この派生の過程で意味の特殊化を引き起こし，日本語側の複合語が有するような意味の解釈を可能とさせている[24].

この他，4.1.1 で見たような「～とき(の)」という読みになる例 (*bag-yn najz* {小さい-GEN 友だち}「幼馴染」, *xuučn-y xuwcas* {古い-GEN 服}「昔の服」cf. xuučin xuwcas {古い 服}「古い服」) や，「～人 (の)」という読みになる例 (*oln-y anxaaral* {多い-GEN 注意}「注目」, *cöönx-ijn sanal* {少ない-GEN 意見}「少数派の意見」) などもある．*xüjten / xüjtn-ij uliral* {寒い／寒い-GEN 季節}「寒い季節」(「季節」そのものが寒いわけではない？), *dotno / dotn-yn xün* {優しい／優しい-GEN 人}「優しい人」というような属格の有無が揺れる表現もあるが，コーパス調査の範囲ではこれらの意味や使われ方の違いについては明らかにできなかった.

4.2.「形容詞」の名詞らしさ

4.1 では「形容詞」に格接辞がどのような場合に付されるのかを概観した．本節では，「形容詞」に格接辞がどの程度よく付されるのかを観察する．観察にあたっては，格接辞が典型的によく付されることになるであろう名詞や，形容詞に似た性質を有するという動詞の形動詞形とも簡易な比較を試みる.

まず mnWaC16 コーパスのワードリスト作成機能を用いて、コーパス内全ての出現語形の出現頻度順リストを作成する．このうち，まず上位から 10 個の名詞を選出する．出現語形としては名詞の裸の形よりも属格形が上位に現れることもあるが，この場合は属格形の属格接辞を取った形で選出する．品詞の判断は『正書法辞典』を用い，同綴の複数の見出し語があっても構わないが，品詞が複数にまたがるものは除外した (例えば xün「人」は出現頻度が高いが，同綴で間投詞となる語があるので除外した．同綴でも動詞語幹と同形なだけならば除外しなかった). この方法で抽出したモンゴル語の名詞のうち出現頻度第 10 位となった語 erx「権利」は，ワードリスト全体で見ると第 67 位に位置していた．そこでこの順位を 10 倍した 670 位からさらに上記と同じ方法で 10 語を選出した．出現頻度が高位の語は，語の使われ方が特殊である可能性があるため，出現頻度がやや低い語についても調査する必要があるためだ.

同様に，同コーパスのワードリスト作成機能を用いて x 及び san, son, sen, sön (正規表現で s[aoeö]n) で終わる語の出現頻度リストも作成し，出現頻度の高い動詞も選出した．-x, -sAn は動詞の形動詞接辞と呼ばれ，連体修飾節や名詞節の述部になる動詞形を成すものである．格接辞を付すことが可能な点で，形容詞に似る．形動詞接辞には他に -dAg と-AA があるが，出現頻度の高い上記 2 つのみを用いた．出現頻度はいずれの形も同じ動詞 5 つが得られた．以下ではこれらを形動詞と呼ぶ.

---

[24] xöngön atlyetik {軽い 陸上競技}「陸上競技」という表現もあるが，これは (26) における競技名と同様に考えれば属格接辞が現れることが期待されるので，例外的であると言える．なお，(26) で示した諸表現は 2 つの独立形態素の間に属格接辞を挟むという点で複合語らしくないが，意味が特殊化するほか，おそらく 2 要素の間に他の要素を挿入することはできず (ex. *urt-yn sajn duu {長い-GEN 良い 歌}「良い長唄」という意味を表わさない)，先行する語のみを修飾することはできない (ex. *maš urt-yn duu {とても 長い-GEN 歌}「とても長い長唄」? などのような意味を表わせない) など複合語らしさも有しているものと思われる．ただし，こうした検証については本稿の手に余るので今後の課題としたい.

これらの名詞 20 語，動詞 5 語 10 形式について，3.2 で見たような「形容詞」に格接辞が付された形を調査するのと同様に，それぞれ格接辞が付された形の出現数をライプツィヒ・コーパスで調査した．その調査結果が以下の表 1 である．表中の「裸」とは格接辞の付されない辞書の見出し語形での検出数，「格」とはそれぞれ格接辞が付された語形と，さらにそのあとに再帰所属接辞が付された語形の検出件数を合計したものである．「比率」とは，この「格」を「裸」で割って百分率[25]で示したものである．

表 1. モンゴル語の名詞と形動詞の格接辞の付される比率

名詞	意味	裸	格	比率(%)	名詞	意味	裸	格	比率(%)
on	年	1145	14504	1266.72	utas	電話	413	7822	1893.95
uls	国	9099	11771	129.37	minut	分	380	503	183.58
sar	月[26]	1487	10345	695.70	programm	プログラム[27]	114	69	60.53
mongol	モンゴル[28]	3021	537	17.78	solongos	朝鮮	154	26	16.88
Mongol		9118	8678	95.17	Solongos		356	773	217.13
gazar	場所	9588	11883	123.94	nölöö	影響	502	376	74.90
üye	時代	2066	15478	749.18	xariuclaga	責任	1156	640	55.36
üjl	行為	6121	224	3.66	büleg	グループ	903	1107	122.59
delxij	世界	1012	3946	389.92	nuuc	秘密	779	321	41.21
tör	政治	3444	10116	293.73	bajgal’	自然	886	906	102.26
erx	権利	7713	3145	40.77	ašig	利益	1434	2242	156.34

形動詞	意味	裸	格	比率(%)
bajx	ある	15132	6798	44.92
bajsan	あった	27366	1804	6.59
bolox	なる	9077	5653	62.28
bolson	なった	11633	1245	10.70
gex	という	5259	5538	105.31
gesen	といった	17394	424	2.44
awax	とる	3965	1480	37.33
awsan	とった	4607	417	9.05
xijx	する	4021	1836	45.66
xijsen	した	3703	401	10.83

※格形式ごとの合計数 (下段はその割合 (%))

名詞

属格	奪格	与位格	対格	造格	共同格
51979	5554	27681	12485	4881	2832
49.31	5.27	26.26	11.84	4.63	2.69

形動詞

属格	奪格	与位格	対格	造格	共同格
1527	2275	10191	4522	6854	227
5.97	8.89	39.81	17.67	26.78	0.89

上位 20 段の名詞は，この比率が 100 を越えるものが多い．この数値が著しく低い語として (20 以下) mongol「モンゴルの」, üjl「行為」, solongos「朝鮮」, (50 以下) erx「権利」, nuuc「秘密」がある．20 を下回る 3 語は，他の語との組み合わせ (他の名詞の修飾語，あるいは複合語の前部要素) として用いられるため，格接辞の付される例が少なくなっているのかもしれない．その他，数値の低い語は抽象的な概念を表すものでより「名詞らしさ」の低い語である可能性もあるが，必ずしもこの数値が抽象度や名

[25] 以下、数値は小数点以下第 3 位で四捨五入し，有効数字は小数点以下第 2 位まで示す．整数となる場合は小数点以下を記さないことでこれを示す.

[26]「隠れた n」のない語形のみを検索した．「隠れた n」とは格接辞を付す際などに現れる，語彙的に条件づけられた出現子音のことである．sar「月」という語は「隠れた n」があれば「(天体としての) 月球」，なければ「(暦の上での) 月，月間」を指すという．

[27] この語には program と programm という綴りの揺れがあるが，これらを合算した数値を示した.

[28] そもそもライプツィヒ・コーパスでは大文字と小文字を区別して結果を算出しているが，あまり大きな問題にならないと考え，全体の調査においては基本的に無視して小文字始まりの語形のみを検索した．しかし固有名詞である mongol「モンゴル」と solongos「朝鮮」については念のため両綴りを検索した．これらの語は形容詞として用いられるときには，小文字始まりで綴られるとされている．

詞らしさの序列にはなっていないと思われる．

動詞の形動詞形はいずれも「比率」100 を下回るものがほとんどで，「名詞らしさ」の低さが現れているように見える．-x と-sAn では全体に前者の方が数値が高く，後者は数値が低い．これも「名詞らしさ」の違いで説明できるかもしれないが，これについて検討することは本稿の手に余るので稿を改めて別途さらなる調査を行いたい．

では次に，これをふまえて本稿で扱う 287 語の「形容詞」の「名詞らしさ」を，格接辞の付されていない語形と格接辞の付された形との比率を較べることで検討していく．まずは表 2 で，「形容詞」それぞれのタイプと名詞・形動詞の，格接辞のついた形の総数を裸の形の総数で割った数値を大きい順に配列した．なお，検索上のゴミのうち，こうした数値に大きな影響を与える語として tüüxij「生の」(属格形と対格形が tüüx「歴史」の属格形・対格形と同形になる), öör「他の」(öör「自分」と同形), nam「低い」(nam「党」と同形) の 3 語は除外して算出してある．

表 2. 形容詞タイプごとの格接辞付加の比率

順位	タイプ	平均比率(%)	順位	タイプ	平均比率(%)	順位	タイプ	平均比率(%)
1	名詞	173.12	8	経時	23.47	15	色彩	7.43
2	評価	36.89	9	美醜	20.70	16	性格	6.24
3	位置	35.97	10	触覚	19.26	17	価値	4.86
4	数量	35.35	11	ヒト	18.25	18	物理	4.53
5	同異	26.81	12	規模	12.68	19	その他	3.97
6	健康	25.69	13	速度	12.49	20	難易	3.94
7	形動詞	25.06	14	良悪	10.51	21	感情	3.35

この数値を見ただけでも名詞と「形容詞」の間に大きな開きがあることが分かる．まずはこの名詞とこれ以外の各語の間で，この「比率」の違いを可視化するために次の図 1 で数直線上にプロットして示す．図の横軸は比率の数値であるが，とくに数値の大きい名詞 on「年」，sar「月」，üye「時代」，utas「電話」及び「形容詞」のうち xamag「全て」(比率 1178.13) を除外してある．点は上から順に名詞, 形動詞を配し, 以下「形容詞」をタイプごとに上記表 1 の序列に従って配してある．

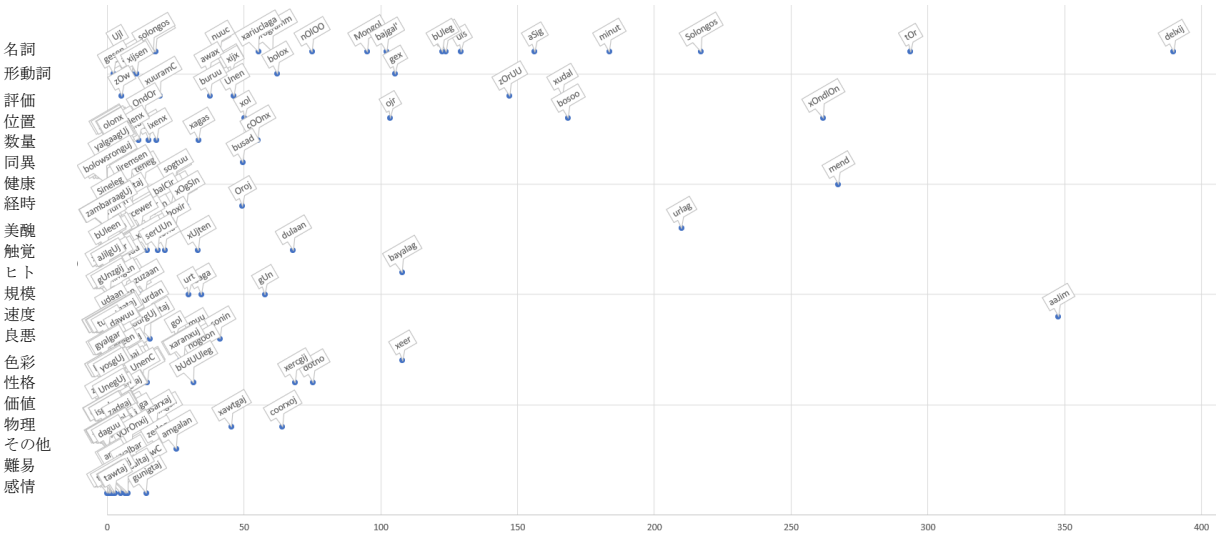

図 1. 名詞・形動詞と「形容詞」各語の格接辞付加の比率

図中では最上段の名詞が左右に幅広く分布するのに対して，形動詞や「形容詞」が左側 50 以下に密集している様子が見て取れる．一方、「形容詞」として選出した語の中にも数値 200 以上のものとして xöndlön「横に」(位置), mend「健康な」(健康), urlag「芸術の」(美醜), aaǰim「遅い」(速度) といった語があることも分かる．

以下，表 3~9 で「比率」の高い順に 3 タイプごとに示して詳細に見ていく．

次の表 3 では格接辞付加比率の高い，名詞，評価，位置タイプの語を格接辞付加比率ごとに整理して示す．名詞は調査した 22 語(形) のうち 17 語が比率 50 を越えるので，ここでは記載を省略した．他方で名詞の中でも üjl「行為」のように，評価・位置タイプの「形容詞」よりも比率の低い語が含まれる点が注目される．

表 3. 名詞および評価，位置の「形容詞」の格接辞付加の比率

	名詞 (22 語)	評価 (6 語)	位置 (5 語)
50<n	※省略	xudal「嘘の」 166.45 zörüü「ズレた」 147.18	xöndlön「横の」 261.82 bosoo「縦の」 168.54 ojr「近い」 103.51 xol「遠い」 50.28
30<n≦50	nuuc「秘密」 41.21 erx「権利」 40.78	ünen「本当の」 46.38 buruu「間違った」 37.71	
10<n≦30	mongol「モンゴルの」 17.78 solongos「朝鮮の」 16.88	xuuramč「嘘の」 19.33	öndör「高い」 13.54
5<n≦10		zöw「正しい」 5.33	
0≦n≦5	üjl「行為」 3.66		
平均値	173.12	36.89	35.97

比率上位の 2 タイプ評価・位置は，そもそも属する語が多くはないが，タイプとして名詞的な性質を持ちやすいらしいことが伺える．

評価タイプのうち zöw「正しい」は単独で間投詞的に用いられる用法があることから比率が低くなっているが，実際には他の評価タイプの語と同様に名詞的な性質を有する可能性がある．

位置タイプの語は，xol「遠い」, ojr「近い」, öndör「高い」と「～ところ」という読みで名詞的に用いられるものと思われるが，xöndlön「横の」は「横の人≒第三者」の読みがあるため比率が高くなっている．bosoo「縦の」については検索上のゴミが多く，おそらく「縦の」の意味では全体の平均と同程度の比率を有するものと思われる．

次ページの表 4 では数量・同異・健康の「形容詞」をまとめる．

数量タイプは平均値で見ると上記表 3. の 2 タイプと同等であるが，実際のところこれは xamag「全ての」という語が上に引き上げているだけである．xamag の属格形 xamgijn は「一番」という形容詞の最上級的な意味を表す修飾語として用いられ，頻度が高いためである．これを除いて平均値を取ると 13.47 となり，順位も 4 位から 11 位まで下がる．

これに次ぐ同異タイプも，多くの語が比率 5 以下に位置している．これを引き上げている busad「異なる」は「他人」の読みがあり，広く名詞的に用いられるものである．

健康タイプも mend「健康な」が他を引き上げている．この語は「挨拶」という意味もあるためであろう．soxor「目の不自由な」や sogtuu「酔った」など「～人」という読みで名詞的に用いられやすい語もあるが，mend「健康な」を除いて健康タイプの平均値を算出すると 3.40 となり，順位は 20 位まで下がる．このタイプは山田 (2022) において「ヒトの性質タイプ」の下位に位置付けたものであるが，必ずしも「～人」という読みの名詞的な用いられ方をして格接辞付加の比率が上がるというものでもな

いらしい.

表 4. 数量, 同異, 健康の「形容詞」の格接辞付加の比率

	数量 (13 語)		同異 (9 語)		健康 (23 語)	
50<n	xamag「全ての」	1178.13			mend「健康な」	267.35
	cöönx「少数の」	55.08				
30<n≦50	xagas「半分の」	33.50	busad「異なる」	49.59		
10<n≦30	ixenx「多数の」	18.16			soxor「目が不自由な」	25.
	olon「多い」	15.29			sogtuu「酔った」	24.89
	ilüü「余剰の」	11.62			teneg「愚かな」	13.54
					uxaalag「利口な」	10.14
5<n≦10	dijlenx「多数の」	8.89			targan「太った」	9.09
	dutuu「足りない」	5.45			ǰiremsen「妊娠した」	8.77
					xučgüj「弱い」	6.25
					cecen「利口な」	5.13
0≦n≦5	büten「全ての」	4.88	tencüü「同じの」	4.72	uxaantaj「利口な」	4.19
			adil「同じの」	4.16	mergen「賢い」	3.56
	cöön「少ない」	3.31	adilgüj「異なる」	3.23	doroj「弱い」	2.70
	xowor「珍しい」	2.08	yalgaataj「異なる」	2.69	čadwarlag「有能な」	2.34
			iǰil「同じの」	2.42	xučtej「強い」	1.75
			ondoo「異なる」	2.11	mundag「利口な」	1.21
	olonx「多数の」	1.96	yalgaagüj「違いがない」	1.43	emzeg「弱い」	1.
					erüül「健康な」	0.92
	ǰaaxan「少ない」	0.65	töstej「似ている」	0.86	xučirxeg「強い」	0.50
	baaxan「多い」	0.21			čadwargüj「無能な」	0
					bolowsronguj「教養ある」	0
					sergelen「健康な」	0
					čijreg「丈夫な」	0
					turanxaj「痩せた」	0
平均値		35.35		26.81		25.69

次ページの表 5 では経時，美醜，触覚の 3 タイプをまとめる.

経時タイプには「～とき」と読める時間にかんする「形容詞」(oroj, šne, xuučin, ert) と「～人」と読める人の世代に関する「形容詞」が含まれ，格接辞付加の比率がやや高いと言える.

美醜タイプは urlag「芸術的な」を除いて算出すると比率の平均は 9.81 (14 位) まで下がる．他方で，同じ語釈を付した「美しい」「汚い」といった複数の語が比率の高い側 (10 以上) と低い側 (5 以下) に別れて分布することは興味深い．これらの語の意味の記述の際にこの点を反映すべきかもしれない.

触覚タイプ (物理特性のうち，触覚によって認識されるもの) も比率の高い側 (10 以上) と低い側 (5 以下) とで分断があるが，比率の高いほうは「重さ」「熱さ」などの程度性を表す表現として頻用のもので，量的に測りうるものがより名詞的に用いられやすいという傾向を反映するものと思われる.

次いで同じく次ページの表 6 では，ヒト・規模・速度を示す.

ヒトタイプ (ヒトの性質を表すもの) では bayalag「豊富な」が数値を引き上げているが，全体的には数値の低いものが多い.

規模タイプで数値の高い gün「深い」は，属格形で「深層の」といった意味で用いられる例が多い．もしかすると「近い」「遠い」などと並んで位置タイプ (cf. 表 3) に含めるべき語であったかもしれない．baga「小さい」はモノの多少を表す点で規模タイプに含めることは問題ないと思われるが，「子どもが

年少であること」を表す点では経時タイプに近いのかもしれない．これらに次ぐ urt「長い」, zuzaan「厚い」, örgön「広い」は「長さ」「厚さ」「広さ」という程度性を表すものとして名詞的に用いられる．

速度の xurdan「速い」なども同様に，「速さ」といった程度性を表すものとして名詞的に用いられる．aaǰim「遅い」は極端に数値が大きいが，(23)~(25) で見たような動詞修飾語としての用法が多く，とくに造格形で用いられることが多いことから比率が高くなっている．副詞的に用いられているので，この比率の高さをもって名詞らしさが高いとは言い難い例であると言える．

表 5. 経時・美醜・触覚の「形容詞」の格接辞付加の比率

	経時 (9 語)		美醜 (12 語)		触覚 (13 語)	
50<n			urlag「芸術的な」	210.	dulaan「暖かい」	68.07
30<n≦50	oroj「遅い」	49.47			xujten「寒い」	33.33
10<n≦30	xögšin「老いた」	29.06	boxir「汚い」	25.	xünd「重い」	21.11
	šine「新しい」	27.90	sajxan「美しい」	17.69	serüün「涼しい」	18.60
	xuučin「古い」	24.53	buzar「汚い」	15.15	xaluun「熱い」	14.65
	zaluu「若い」	23.36	cewer「清潔な」	12.43		
	balčir「年少の」	20.63	muuxaj「汚い」	11.14		
5<n≦10	nastaj「老いた」	8.85				
0≦n≦5	ert「早い」	4.30	zawaan「汚い」	2.56	zöölön「軟らかい」	3.91
	šineleg「新しい」	0.92	ariun「清潔な」	1.36	xatuu「固い」	3.39
			goyo「美しい」	0.79	nojton「濡れた」	2.53
			zambaraagüj「散らかった」	0.39	xöngön「軽い」	2.48
			uran「芸術的な」	0.28	uyan「軟らかい」	1.06
			üzesgelentej「美しい」	0	xuuraj「乾いた」	0.56
					urin, büleen「暖かい」	0
平均値		23.47		20.70		19.26

表 6. ヒト・規模・速度の「形容詞」の格接辞付加の比率

	ヒト (14 語)		規模 (19 語)		速度 (4 語)	
50<n	bayalag「豊富な」	107.84	gün「深い」	57.68	aaǰim「遅い」	347.83
30<n≦50			baga「小さい」	34.46		
10<n≦30			urt「長い」	29.78	xurdan「速い」	15.74
			zuzaan「厚い」	14.07		
			ix「大きい」	12.71		
5<n≦10	yaduu「貧しい」	7.61	uudam「広い」	6.67	türgen「速い」	5.59
			örgön「広い」	5.50		
0≦n≦5	bayan「豊かな」	4.25	nimgen「薄い」	5.	udaan「遅い」	1.68
	xöörxij「かわいそうな」	3.95	uuǰim「広い」	2.5		
	xongor「愛しい」	2.70	tom「大きい」	2.35		
	zawgüj「忙しい」	1.12	ǰiǰig「小さい」	1.92		
	aǰiltaj「忙しい」	0.55	öčüüxen「小さい」	1.87		
	aǰilgüj「無職の」	0.37	bogino「短い」	1.17		
	yaaraltaj「せわしい」	0	narijn「細い」	1.15		
	xöörxön「愛しい」	0	günzgij「深い」	0.97		
	nyagt「親しい」	0	byacxan「小さい」	0.91		
	yaaruu「忙しい」	0	yawcuu, dawčuu「狭い」	0		
	enxrij「愛しい」	0	büdüün「太い」	0		
	ewtej「親しい」	0				
平均値		23.47		20.70		19.26

次の表 7 では良悪・色彩の「形容詞」を提示する．

表 7. 良悪･色彩の｢形容詞｣の格接辞付加の比率

	良悪 (33 語)		色彩 (25 語)	
50<n			xeer「鹿毛の」 108.02	
30<n≦50	sonin「面白い」41.24	muu「悪い」 32.48	nogoon「緑色の」34.25	
10<n≦30	gol「主要な」25.11 taalamǰtaj「好きな」15.79	durgüj「嫌いな」13.26	xaranxuj「暗い」28.08 gegeen「明るい」26.77	šar「黄色い」 10.26
5<n≦10	demij「無意味な」6.85 onc「特別な」 6.29 sajn「良い」 5.46	dawuu「優れた」5.25 durtaj「好きな」 5.07	zeerd「栗毛の」8.82 tod「はっきり」8.74 bor「茶色の」 7.79	xöx「青い」 7.39 ereen「まだらの」6.06
0≦n≦5	taaruu「悪い」 4.49 sonirxolgüj「つまらない」 4.08 toxiromǰtoj「妥当な」4. čuxal「大事な」 3.26 xairtaj「愛する」2.96 šaardlagataj「必要だ」 2.48 šaardlagagüj「必要ない」 2.47 zoxistoj「妥当な」 2.41 xeregtej「必要な」2.29 ewgüj「不快な」2.09	xereggüj「必要ない」2.08 sonirxoltoj「面白い」1.64 oligtoj「良い」 1.52 gajxamšigtaj「すごい」0.94 ayataj「快い」 0.79 tusgaj「特別な」0.21 oncgoj「特別な」0.12 ašgüj「良い」 0 zoxisgüj「不当な」0 ayagüj「不快な」0 gaixamšigt「すごい」0 ǰigtej, xačin「変な」0	xar「黒い」 4.93 cagaan「白い」4.67 alag「まだらの」4.63 saruul「明るい」3.87 ulaan「赤い」 3.60 il「はっきり」 3.22 tungalag「澄んだ」3.17 xüren「褐色の」1.97 yagaan「桃色の」1.83 cenxer「青い」 0.84 todorxoj「はっきり」 0	gyalgar「光沢ある」0 geteltej「明るい」 0 büdeg「暗い」 0 cooxor「まだらの」0
平均値	10.51		7.43	

良悪の sonin「面白い」は「新聞」という意味があるため，色彩の xeer「鹿毛の」は同音異義語[29]「草原」があるため，nogoon「緑」は格形式に「野菜」という語釈が含まれるため，いずれも格接辞付加の比率が高くなったものと思われる．他方，良悪の muu「悪い」は，[名詞 形容詞]-tAj という構文 (cf. (22)) でよく用いられることが比率の高くなった原因である．

また，山越 (2000: 105) では形容詞が名詞化しやすい典型例として世代に関する語 (本稿における経時の「形容詞」の一部) と色彩形容詞が挙げられやすいと指摘している．しかし上記調査によれば，格接辞が付されるかどうかという観点からは色彩を表す語は他の「形容詞」と較べてもあまり高いとは言えなさそうである．

次ページの表 8 には性格・価値・物理の「形容詞」を挙げる．

4.1.3 の末尾で触れたように dotno「優しい」は属格形で名詞修飾する例もあり，これゆえに比率が高くなっているものと思われる．

[29] 本稿の目的に照らして，ある語が複数の意味を有することと，同音異義語を有することは区別されるべきであるが，この点について十分な考慮ができていない．基本的にある語義と類義の関係であったり換喩になっていたりする場合には多義語であると見做し，同じ語形でも類義や換喩になっていない複数の意味がある場合は同音異義語の別の語であると考えるが，その両者の区別は必ずしも分明ではない．モンゴル語の場合は書き言葉として今回調査に用いた文字綴りの他に伝統的な文語形が存在し，この文語形での綴りの異なりを根拠に別の語であると見做すこともある (これは通時的には区別されていた語が同音・同綴に合流したという史的変遷を示唆する可能性もあるが，文語形でも同音の語を区別するために綴りが変更されることもありうるため，決定的な証拠にはならない)．ここで扱う xeer という語も文語形では keger「鹿毛の」, keger_e「草原」と区別される．

表 8. 性格・価値・物理の「形容詞」の格接辞付加の比率

	性格 (25 語)	価値 (8 語)	物理 (23 語)
50<n	dotno「優しい」 75.31 xercgij「残酷な」 68.75		coorxoj「穴開きの」 64.15
30<n≦50	büdüüleg「がさつだ」 31.58		xawtgaj「平らな」 45.45
10<n≦30	zalxuu「怠けた」 14.71 najrsag「優しい」 14.29 ünenč「正直な」 12.77		šingen「薄い・液状の」 20.96 tasarxaj「途切れた」 18.03 čanga「声の大きい」 10.77
5<n≦10	šudarga「真面目な」 9.64 zorigtoj「勇敢な」 8.51 nöxörsög「付き合い良い」 6.82 nyambaj「細心の」 6.06 ers「断固とした」 6.06	xyamd「安い」 8.38 ašigtaj「便利な」 8.10	šuluun「まっすぐな」 7.69 sul「空っぽな」 6.48
0≦n≦5	najrtaj「優しい」 3.85 zürxtej 「勇敢な」 3.70 bolxi「がさつな」 3.33 širüün「粗暴な」 2.56 yostoj「礼儀正しい」 2.25 xargis「残酷な」 1.77 dogšin「狂暴だ」 1.75 yosgüj「無礼な」 1.54 nomxon, tomootoj, namuun, dölgöön, daruu「穏やかな」0 bardam「横暴な」 0	belen「準備できた」 4.88 tustaj「役立つ」 4.26 ünetej「値段が高い」2.64 ünegüj「無料の」 1.57 awsaar, zoximǰtoj「便利な」0	zadgaj「開いた」 4.32 gašuun「苦い」 4.10 xooson 「空っぽな」 4.07 ammtaj「おいしい」 4.05 sem「静かな」 2.99 čimeegüj「静かな」 2.15 bitüü「詰まった」 0.58 duugüj「静かな」 0.40 tegš「平らな」 0.26 yaruu「調和した」 0.25 düüren「いっぱいの」 0.17 celmeg「晴天だ」 0 ötgön「濃い」 0 böörönxij「丸い」 0 dörwölǰin「四角い」 0 isgelen「酸っぱい」 0
平均値	6.24	4.86	4.53

最後に，表 9 でその他・難易・感情の「形容詞」を見ていく．比率の数値が 30 を越えるものはない．その他には現時点で意味的に分類しがたいものを割り振ったが，結果として 3.3. で本調査のために新たに加えた語の多くがここに含まれることとなった．これらは，あるいは清格尔泰 (1991: 183) が言う関係形容詞 (cf. 注 10) に近いグループと言えるかもしれない．関係形容詞とは，派生形容詞のうち形容詞化の程度が低いものを指すという．ここでいう「形容詞化の程度が低い」とは，意味的に派生元の特徴を多く引き継いでいることを指すものと思われる．格接辞が付されて名詞的に用いられるかという観点からすると，これらは形容詞的な性質が強い (格接辞付加の比率が低い) と言いうる．

表 9. その他・難易・感情の「形容詞」の格接辞付加の比率

	その他 (27 語)	難易 (4 語)	感情 (12 語)
10<n≦30	amgalan「平和な」 25.28 zerleg「野生の」 18.26	towč「簡潔な」 16.15	gunigtaj「悲しい」 14.29
5<n≦10	yörönxij「一般的な」 8.98 mor't「馬がある」 8.33 xučingüj「無効な」 8.29 argagüj「仕方ない」 7.76 ayuulgüj「安全な」 6.17	xyalbar「易しい」 7.89	xaramsaltaj「残念な」 7.63 aztaj「幸せな」 7.04 zowlontoj「悲しい」 6.67

0≦n≦5	xijmel「人工の」 4.66 ügüj「無い」 4.41 bolomǰgüj「可能性がない」 4.11 delgerengüj「詳細な」 3.32 bolomǰtoj「チャンスがある」 3.25 ayuultaj「危険だ」 2.17 xamaataj「関係がある」 1.72 gajgüj「大丈夫な」 1.41 erxgüj「権利がない」 1.39 togtmol「定期的な」 1.26 xar'cangüj「相対的な」 1.04 magadgüj「かもしれない」 1.01 garcaagüj「疑いない」 0.87 tügeemel「普遍の」 0.81 daguu「沿った」 0.48 xamaagüj「関係ない」 0.16 galt「火がある」 0 suraggüj「消息がない」 0 nijtleg「共通の」 0 uularxag「山がちな」 0	xecüü「難しい」 2.07 amar「易しい」 2.02	bayartaj「嬉しい」 4.89 tawtaj「快適な」 2.86 töwögtej「困難な」 2.24 tuxtaj「快適な」 2.11 ǰargaltaj「幸せな」 1.23 taataj「嬉しい」 0.80 xögǰiltej「嬉しい」 0.62 ujtgaltaj「寂しい」 0
平均値	3.97	3.94	3.35

4.3. 格接辞ごとの傾向

本稿での調査語彙全てについて，付された格接辞別に検出数を合計してその割合を算出すると，次のようになる (表 10).

表 10. 格接辞別検出数とその割合

裸の形	属格	奪格	与位格	対格	造格	共同格	格形式合計
201452	13769	1343	5266	3901	4461	3309	32049
—	42.96	4.19	16.43	12.17	13.92	10.32	—

ここでこの表 10 で示す形容詞の格接辞の割合と，表 1 で示した名詞と形動詞の格接辞の割合を較べるために図示したのが次の図 2 である。

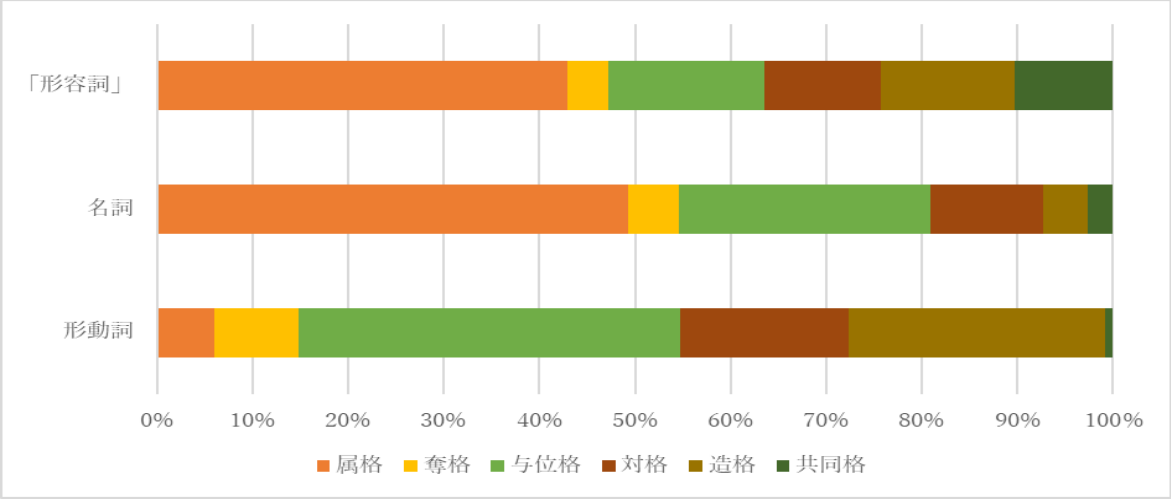

図 2. 付される格接辞の割合

図 2 のグラフから見て知りうるのは,「形容詞」と名詞には分布の似ているところがある一方，形動詞についてはいずれとも似ていないように見えるところである.「形容詞」と名詞とでは属格接辞の付される割合が最も大きく，次いで与位格が続くという点で類似している．他方で形動詞は「形容詞」・名詞いずれとも割合の様相がかなり違って見えるが，その大きな要因は形動詞と与位格や造格を組み合わせた表現が極めてよく使われるからであろう．それを差し引いても，属格の割合が小さい点で形容詞・名詞とは使われ方が異なるらしいことが見て取れる．しかし「形容詞」、名詞、形動詞のそれぞれについて格接辞の付された例の検出数について分散分析を用いて検定してみると F 値は 1.73 となる．有意水準の 0.10 より大きく，すなわち数値間のばらつきが大きいため，上記の見た目上の類似はコーパスデータの規模の小ささなどに起因すると思われる偶然性を排除できず，有意な結果とは言えない[30].

次に格接辞ごとにどのような「形容詞」に付されやすいか見てみる.

格接辞付加の比率が高い語 (≒より名詞的に用いられる「形容詞」) ほど属格接辞が付されやすい傾向にあり，延べ数で計算すると全体として名詞の傾向に似て属格接辞の付される割合が高くなっている (cf. 表 10.) ものと思われる.

語ごとに，最もよく付される格接辞で分類すると造格が異なり語数 57 語で最多となる (同率一位がある場合は 0.5 で加算．以下，属格 39.5 語，与位格 34.5 語，対格 33 語，共同格 18 語，奪格 6 語．全て 0 の場合は算入しなかったので合計数は「形容詞」の総数に満たない). この数字は 4.1.3 で見た「形容詞」に造格接辞を付して動詞修飾成分として用いる構文が広く行われていることを示すものであろう.

与位格も，対格を若干しのぐ数値を示すが，これも同様に 4.1.3 で見た動詞修飾の用法の反映であるかもしれない．今回調査した 22 語の名詞の与位格形に再帰所属接辞が付された形を調べてみると, 付されないもの 50997 に対し付されるもの 2967 であった (5.81%). これに対して「形容詞」の与位格形でも同様に調べてみると、再帰所属接辞の付されていないもの 4257 に対し付されるもの 2518 (59.14%) と圧倒的に多い．こうした分布の大幅な異なりは，後者の与位格接辞 -d + 再帰所属接辞 -AA に見える形式が，実際には -dAA という形容詞に付して副詞的に機能させるような別の形態素である可能性があると考える.

共同格接辞 (同形の「～を持った」という意味の接辞を含む) と共に使われやすい語を見ると，[名詞 形容詞]-tAj 構文で用いられるもの (cf. (22), 表 7 下の説明) として muu「悪い」の他に baga「小さい／少ない」, ilüü「余剰の／多い」, cöön「少ない」, sul「空っぽの」などがある．さらに尺度などを表す語を伴って程度を表す表現に用いられるものとして zuzaan「厚い」, xünd「重い」, öndör「高い」などがある (27)[31].

---

[30] js-STAR (version 8.1.1.) というフリーソフトを用いて計算した．これはウェブ上で公開され，ブラウザ上で動作する統計ソフトである (https://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star8/)。このうち分散分析の sA デザイン (1 要因参加者内計画) を利用した.「形容詞」・名詞・形動詞の間のばらつきの分散は 655242490.7778、格接辞ごとの出現割合の分散は 926560116.2778 であった。また、これらの交互作用の分散は 1071758784.555 であった。総分散は 2653561391.611 であり、自由度は 17 となった。。

[31] この例では主語である ene uul「この山は」に対して 4200 myetr öndör「4,200 メートルの高さ」という単一の名詞句 (あるいは形容詞句) から成るという点で [名詞 形容詞]-tAj 構文を取っているとは見做さない ([名詞 形容詞]-tAj 構文ならば [ ] の内部を取り出した主語名詞句と形容詞述語から成る節を成す).

一方，この例では属格名詞句が öndör「高い」という語を修飾しているという点で形容詞が文中で名詞として機能していることが示唆される例であると言える．先行する名詞 myetr「メートル」が属格接辞を付さない形式である例もあるが，これは複合が起きた例であると言えよう．ところで試みに (27) の例について -tAj {-PROP} を除いた文が許容されるかモンゴル国出身のモンゴル語話者 3 名 (いずれも 30 歳代) に問うたところ，許容するとの回答も得られたが (1 名)，-tAj {-PROP} の無い場合は先行する名詞 myetr「メートル」の属格も削除した方がより自然であるとの回答も得られた (2 名). 属格が無く複合を成す場合の myetr öndör {メートル 高い} の品詞論上の位置づけは不明であるが，少なくとも属格

(27) *ene uul dalaj-n tüwšn-ees deeš 4200 myetr-ijn öndör-tej=l döö.*
この 山 海-GEN 水準-ABL 上へ メートル-GEN 高い-PROP=EMP SFP
「この山は高さ海抜 4200 メートルですよ」

5. おわりに

本稿では形容詞的な意味という観点から選出した「形容詞」と，典型的に形容詞を派生するとされる接辞を有するものから選出した「形容詞」を対象として，モンゴル語の「形容詞」に格接辞がどのように付されるかを観察した．

格接辞が付される比率が高いほど名詞的である，とは必ずしも言えないが，典型的な名詞と較べると多くの「形容詞」は圧倒的に格接辞の付される比率が低い．これは裸の形で修飾語として機能する頻度の高いことに起因する．また「形容詞」選出の際に用いた意味分類を利用すると，評価タイプや位置タイプ，経時タイプなど，名詞的に用いられやすい形容詞の意味的な傾向を見出すことができた[32]．

山田 (2022, 2023a) の一連の研究を通じて，モンゴル語の形容詞をいかに定義するかという観点から「形容詞」形態論の諸問題について考察してきた．あくまでもコーパスを用いた使用実態調査であるので，「形容詞」のある形式が任意の形式を取りうるか否かという問題には答えることができないが，「形容詞」が取りうる形容詞らしい形式 (山田 2022, 2023a)，名詞的な性質を見せる形式 (本稿) の傾向を示すことはできたと考える．

今後の課題としては，こうした傾向についてモンゴル語話者からの聞き取り調査も併用し，ここで提案する「形容詞」の意味分類を洗練させていくということが必要である．また，一連の研究で「形容詞」を定義するには至らなかったが，「形容詞」を記述する上で必要となる事項について洗い出すことができたので，こうした記述の精緻化を進めることも可能となった．また，ここでは形態的側面にのみ

を含む myetr-ijn öndör {メートル-GEN 高い} の öndör「高い」は名詞であると判断され，この文では「この山は」という主語に対する述語として合わないため許容されにくい，と説明することはできる．

ただしこうした例からは元の形容詞のまま述語となることと，名詞として用いられた形容詞に -tAj {-PROP} を付して形容詞述語として機能することの語用論上の違いは不明である．これに類する例として buruu「間違った」vs. buruu-taj {間違った-PROP}「誤りがある」のように -tAj {-PROP} の有無で意味や用法に違いが見いだせないようなペアがある．こうした対立の存在する背景については，今回のコーパス調査からは明らかにすることができなかった．

[32] Dixon (2010) では形容詞的な意味ごとに，通時的な傾向を部分的に示している．そこでは例えば典型的に形容詞というクラスを成しそうな意味グループとしてまず「規模」(dimention),「経時」(age),「価値」(value; 本稿における「良悪」「美醜」「価値」),「色彩」(colour) の 4 種類があるとしている．これが通時的に名詞にも動詞にもなりにくいことを示すもので，今回の調査における「名詞らしさ」の低さに対応するものであるとすれば，4.2 の表 2 における順位では 21 件中の低い順序に偏って現れることが期待される．しかし実際に得られた結果は「経時」8 位，「美醜」9 位，「規模」12 位，「良悪」14 位,「色彩」15 位, 「価値」17 位であった．さらに Dixon (2010) は「物理特性」(physical property; 本稿における「触覚」「物理」) がもし形容詞というクラスを成さないとすれば動詞になりやすいとしている．これが通時的に「物理特性」の「名詞的らしさ」の低さを表すものであるとするとやはり低い順序に偏ることが期待されるが，「触覚」10 位，「物理」18 位であった．これらのうち「物理」が「名詞らしさ」の比較的低いところに偏る特性は，ある程度 Dixon (2010) による意味グループごとの傾向を支持するものであると言えるかもしれない．しかしそれ以外については Dixon (2010) が示す傾向を支持するものではなかった．ただし本稿で採用した語彙の分類にはそもそも問題がある可能性もあるので，この点で分類の精緻化が今後の課題となる．

着目してきたが，Yamada (2023) で取り組んだ「形容詞」の修飾機能に着目した研究も進めることでモンゴル語の「形容詞」の究明に役立つのではないかと思われる．

記号一覧

1,2,3: 1st, 2nd, 3rd person 一人称，二人称，三人称
ABL: ablative 奪格
ACC: accusative 対格
ANT: anterior 先行副動詞
ASS: associative 連結副動詞
COM: commitative 共同格
COND: conditional 条件副動詞
DAT: dative-locative 与位格
EMP: emphasis 強調
FUT: future 未来形動詞
GEN: genitive 属格
HBT: habitual 習慣形動詞
HON: honorative 敬意
IMP: imperative 命令
INS: instrumental 造格
IPFV: imperfective 未完了形動詞
INT: interjection 間投詞
NEG: negative 否定
NPST: non-past 非過去
PERF: perfective 完了形動詞
PL: plural 複数
PN: proper noun 固有名詞
POSS: possessive 所属
PROP: proprietive「～を持った」という意味の接辞
PST: past 過去
Q: question 疑問
REFL: reflective 再帰所属
SFP: sentence final particle 終助詞
SG: singular 単数
SIM: simultaneous 同時副動詞

参考文献

Dixon, R. M. W. 2010. 12. The Adjective Class. *Basic Linguistic Theory.* Volume 2 Grammatical Topic. New York: Oxford University Press. 電子版

Kullmann, Rita. and Dandii-Yadam Tserenpil. 2015. *Mongolian Grammar.* 5th revised edition. Verlag: Kullnom.

Önörbayan, Cedewijn. Luwsandagwyn ǰumdaan. Myagmaryn Saruul-Erdene. J̌awzandulamyn Ganbaatar. 2022. *Mongol xel sudlal IX bot' Üg züj*. Ulaanbaatar. (Өнөрбаян, Цэдэвийн. Лувсандагвын Жумдаан. Мягмарын Саруул-Эрдэнэ, Жавзандуламын Ганбаатар. 2022. *Монгол хэл судлал IX боть Үг зүй.* Улаанбаатар.)

清格尔泰. 1991.『蒙古语语法』呼和浩特: 内蒙古人民出版社.

塩谷茂樹. 2007.『モンゴル語ハルハ方言における派生接尾辞の研究』大阪外国語大学学術研究双書 35. 大阪外国語大学.

山田洋平. 2022.「モンゴル語の形容詞につく接辞 -xAn」『語学研究所論集』第 26 号 (2021). 東京外国語大学語学研究所. pp1-23.

_____ 2023a.「モンゴル語の形容詞の「程度」を表す範疇」『語学研究所論集』第 27 号 (2022). 東京外国語大学語学研究所. pp27-49.

_____ 2023b.「モンゴル語の「形容詞」の動詞修飾機能」日本北方言語学会 第 6 回大会 (2023 年 11 月 18 日(土)・19 日(日) 新潟大学). 口頭発表

Yamada Yohei. 2023. "Mongol xelnij ünelemǰ ilerxijlex temdeg nereer üjl ügijg todotgox tuxaj". Tüüxen ba orcin üyeijn mongol xel, ayalguunuud: Nijtleg šinǰ ba xögǰlijn onclog Olon ulsyn erdem šinǰilgeenij xural. Ulaanbaatar. 口頭発表 (Ямада Ёохэй. "Монгол хэлний үнэлэмж илэрхийлэх тэмдэг нэрээр үйл үгийг тодотгох тухай". Түүхэн ба орчин үеийн монгол хэл, аялгуунууд: нийтлэг шинж ба хөгжлийн онцлог Олон улсын эрдэм шинжилгээний хурал.)

山越康裕. 2000.「現代モンゴル語における「名詞」と「形容詞」について」『日本モンゴル学会紀要』第 30 号. 日本モンゴル学会. pp97-108.

Wierzbicka, Anna. 1988. “What’s in a Noun?” *The Semantics of Grammar.* Amsterdam/Philadelphia: John Benjamings Publishing Company.

参考 URL

Bolor tol’ (https://bolor-toli.com/ オンラインのモンゴル語辞典, 2023 年 12 月 13 日最終閲覧)

Js-STAR (https://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star8/ ブラウザ上で利用可能な統計ソフト, 2024 年 3 月 20 日最終閲覧)

Mongol xelnij zöw bičix dürmijn ǰuramlasan tol’ (http://toli.gov.mn/ オンラインの正書法辞典. 2023 年 12 月 8 日最終閲覧. Монгол хэлний зөв бичих дүрмийн журамласан толь)

執筆者連絡先：yamadabayar@tufs.ac.jp

原稿受理：2023 年 12 月 13 日